

千住製絨所第二要覽

DH 22
372



850355

正誤

頁	行	誤	正
三十六年度	(受入)總生産品ノ價格	一八五四一六六四	一八五四一六六二
三十七年度	(拂出)織出ノ支出濟額	四五〇一九五五九六	四五〇一九五五九六
三十八年度	(同) 損失ニ歸シタル物品ノ價格	一九三五二四七六	一九三五二四七六
四十年年度	(同) 消費シタル材料及素品ノ價格	二三五九六八三	二三五九六八三
絨類價格表中		七十一號白紙	七十一號白絨
表ノ五中			
三十二年年度	販賣代價ノ計欄	一、二八八五二、三八九二	一、二八八五二、九九九二
三十九年度	全上ノ絨ノ欄	二、七五九六〇、三九五五	二、七五九六〇、三九五五
四十年年度	全上欄	三、〇七九〇二、九七六〇	三、〇七九〇二、九七六〇
職工延人員及給料表中		度	年
購入羊毛染料及石炭表中		度	年
三十五年年度	染料	五、六三八、二七六六	一、五、三八、二七六六

正 誤

頁數	行數	欄	
五	十		「エル、レヅキンソン」ハ「エル、レヅキソン」ノ誤
六	二		「許可」ハ「許可」ノ誤
廿一	十五		「サル」ハ「サリシ」ノ誤
卅五	四		「五月ヨリ」ノ四字ヲ削
四一	十		正確ノハ正確ヲノ誤
同	十		職工ノ勤ノ下ニ「惰」ノ字ヲ脱ス
同	十五		分ノハ分ハノ誤
四三	十四		「迄速」ハ「迅速」ノ誤
四七	十三		「掲場」ハ「揚場」ノ誤
四八	五		當ノハ當リノ誤
八一	二	上欄	鍛工場ノ下「木工場」ノ三字ヲ脱ス
八五	三		四拾萬圓ノ下「ヲ」ノ字ヲ削ル
九九	十	上欄	「職日」ハ「職工」ノ誤
百一	三	上欄	「交送」ハ「交迭」ノ誤
百三	七		一ノ下ニ「臺」ノ字ヲ脱ス
同	十一		「軸力」ハ「軸眞」ノ誤

作業費支出科目表

應費	二十九年度	四四四七四	四五四七四
俸給及諸給	三十二年	一〇、三二七九	一〇、三二七九
旅費	三十六年度	一、三六九六	一、三六九六
雜給及雜費	三十九年度	八、三三八九	八、三三八九

作業費收入科目表中

製品賣拂代	三十五年	一、五三、五三〇三	一、五三、五三〇三
合計	三十一年	一、二七、四二、四四四	一、二七、四二、四四九

受拂損益表中

受入三十年	總機械運轉用品ノ價格	八八、八〇、四三九	八八、八〇、四三九
同三十四	收入未濟額	三三、〇〇、六八八	三三、〇〇、七〇〇
三十五年	益金	三、一七、七三三	三、一七、七三三
三十六	(受入)總生産品ノ價格	一八、五四、六六八	一八、五四、六六八
三十七	(拂出)歳出ノ支出濟額	四五、〇三、九五九	四五、〇三、九五九
三十八	(同)損失ニ歸シタル物品ノ價格	一九、三五、二四七	一九、三五、二四七
四十年	(同)消費シタル材料及索品ノ價格	二、三五、九六二	二、三五、九六二

絨類價格表中

表ノ五中	七十一號白紙	七十一號白絨
------	--------	--------

三十二年	販賣代價ノ計欄	一、二八、五三、八九二	一、二八、五三、八九二
三十九	全上ノ絨ノ欄	二、七五、九〇、九五五	二、七五、九〇、九五五
四十年	全上欄	三、〇七、九〇、九七〇	三、〇七、九〇、九七〇
職工延人員及給料表中	度	年	年
購入羊毛染料及石炭表中	度	年	年
三十五年	染料	五、六、八、二七六	五、六、八、二七六

千住製絨所第二要覽

緒言

千住製絨所創業ヨリ明治二十二年度ニ至ル事業ハ千住製絨所沿革誌ニ二十三年度ヨリ二十八年年度ニ至ル事業ハ千住製絨所要覽ニ詳ナリ今茲ニ千住製絨所第二要覽トシテ印刷ニ付スルハ二十九年年度ヨリ四十年年度マデ十二年間ノ事業ノ概要ヲ掲ゲタルモノナリ

明治四十一年四月

千住製絨所長 工學博士大竹多氣

千住製絨所第二要覽目次

- 一 明治二十九年年度ヨリ同四十年年度ニ至ル千住製絨所ノ沿革
- 二 明治三十七八年戰役ノ爲メ臨時軍事費ヲ以テ支辨シタル金額
- 三 明治四十年年度末固定資本現在額
- 四 据置運轉資本
- 五 作業費收支科目
- 六 作業費受拂損益
- 七 製品價格高低一覽
- 八 製造額、販賣額及販賣代價
- 九 職工延人員及給料
- 十 購入羊毛染料及石炭
- 十一 敷地及工場畧圖

(一) 千住製絨所沿革

明治二十九年年度

明治二十九年四月一日 當所屬礪山廣福ノ前渡現金取扱ヲ免シ該任務ヲ當所御用掛陸軍屬津田兵三郎ニ命ス

五月二十七日 昨年六月許可ヲ得テ歐洲ヘ注文シタル増設工場用機械ハ漸次到着セリ然ルニ當所構内ニ藏置スヘキ塲所ナキヲ以テ第一師團監督部ヘ照會ノ上本所區横網町砲兵第一方面倉庫内ヲ借用シ假小屋ヲ建設ス

六月三日 現在ノ臨時職工ニ限リ特ニ辭令ヲ用井ス日給參拾錢以下ノ者ヲ職工規則別表日給額ニ相當スル等級ノ工男工女試驗工男試驗工女幼年工男幼年工女ト爲ス

同日 前記ニ因リ本職工ト爲シタルモノ、昇級ニ關スル年月計算ハ日給同額ヲ給シタル日ヨリ算シ又賞與ノ月數計算ハ本月一日ヨリ算スルトトセリ

職工進級内規

同日 職工中技男ハ定期職工中ヨリ命スル規則ナルモ臨時職工中技男同等ノ日給ヲ給スルモノニシテ定期ヲ望ムモノハ今回ニ限リ直ニ日給相當ノ技男ニ採用セリ

同十八日 職工進級内規ヲ定メ職工昇級内規ヲ廢ス

七月二日 第一工場瀛罐入替ノ爲メ執業シ難キ場所ハ本月六日ヨリ當分晝夜共休業ス

八月十五日 瀛罐入替ノ爲メ休業セル場所ハ本日ヨリ復舊始業ス

同十九日 當所物品會計事務手續中改正刪除

九月二日 勅令第二百九十七號ヲ以テ千住製絨所長特別任用令ヲ發布セラル

所長交迭

十月十六日 所長小池正文願ニ依リ本官ヲ免セラレ陸軍一等監督内海春震所長ニ任セラル

十二月十五日 當所専用ノ登録商標相續ノ爲メ所長更迭届ヲ特許局ニ出ス

同十六日 近時天然痘流行シ漸次蔓延ノ兆アルヲ以テ醫士樋口玄誠外一

所長特別任用令發布

名ヲ聘シ職工人夫ノ未痘者ニ種痘ス

同十九日 客歲十月製絨事業研究ノ爲メ歐洲へ派遣セラレタル當所雇員渡部謙吉ハ本年十月ヨリ獨逸國「アーヘン」市製絨專門學校ニ入校セシカ授業料ヲ始メ其他ノ諸費豫想外ニ多額ヲ要シ頗ル困難ヲ爲ス山同國公使館附田村中佐ヨリ特ニ内報アリ若シ學費ノ不足ヨリ充分ノ究研ヲ遂クル能ハザルトキハ派遣セラレタル趣旨ニモ背クヲ以テ本年十月以後手當金年額貳百四拾圓増額支給ノコトヲ上申シテ許可ヲ得

同三十年一月八日 本月十日ノ日曜日ヲ以テ事務所及工場休業シ爾後隔週ノ日曜日ヲ休日ト定ム

濠洲羊毛時價請負購買

同二十八日 濠洲羊毛ハ從來メルボルン府「エルレグキンソン」ヨリ依託購買法ニ據リ購入シ而シテ一切ノ事務バ代理店大倉組ヲシテ取扱ハシメ來シガ近年生産地ト交通ノ便漸ク開ケタルヲ以テ來ル三十年度ニ於テ軍備擴張ノ爲メ増加ノ分ハ時價請負購買法ニ據リ買收試ミ度幸ヒ濠洲「シドニー」市「ヒルクラーク」商會ヨリ福嶋合名會社ノ手ヲ經テ供給致度旨本省へ願出タル趣ニ付前件許可ノ上「ヒルクラーク」商會ヨリ福嶋合名

据置運轉資本
増額

會社ヲ代理ト爲スノ証明書ヲ出サシメ而シテ需用ノ時々福嶋合名會社
ト契約スルコトニ致度旨上申シ併セテ誰可ヲ得
二月六日 近衛師團監部長ヨリ本所横綱町砲兵第一方面倉庫構内當所
假小屋ニ使用ノ地所入用ノ趣照會アリシト雖他ニ移轉スヘキ場所ナ
キニ依リ同地所内ニ於テ差支ナキ場所ニ移轉ス
同二十七日 明治三十年二月二十七日法律第四號ヲ以テ明治三十年度ヨ
リ漸次金貳拾壹萬參千五百參圓貳拾錢九厘ヲ當所据置運轉資本ニ増加
セララル
三月六日 當所定詰夫勤務心得ヲ改正ス

販賣所廢止

明治三十年度

明治三十年四月一日 從來合名會社大倉組ト契約ノ上銀座二丁目ニ販賣
所ヲ設置シ當所製品ノ販賣ヲ取扱ハセ來タリシカ近年軍隊用絨ノ製造
繁忙ノ爲メ民間需用ノ絨類製造ノ餘暇ナク且ツ契約ノ期滿チタルトニ
因リ該販賣所ハ本年三月三十一日限り廢止ス
四月六日 職工規則中第二條第四條第七條第八條第九條第十條第十一條第廿條
第卅四條ヲ改正修補ス
同日 職工規則改正給額表ヲ削除セシニ因リ職工日給表ヲ施行ス
五月六日 當所主任收入官吏屬金井長善昨五日死亡セシニ因リ後任ヲ屬
津田兵三郎ニ命ス
同十一日 屬柳澤信行ニ當所主任收入官吏ヲ命ス
同二十五日 本年度ヨリ販賣所ヲ廢止セシヲ以テ絨類普通販賣手續ヲ定
メ諸官廳ヲ除ク外小口物ノ賣渡ハ毎月金庫員當所へ出張ノ日ニ限り取
扱フコトニ定ム
六月二十五日 火元取締ニ關シ陸軍大臣ヨリ訓令アリタルヲ以テ所員ニ

一層注意ヲ加フヘキ旨訓示セリ

同日 職工慰勞金給與内則ヲ定メ職工勉勵手當内規ヲ廢ス

同二十日 曩ニ定メタル職工日給表ハ日給増減調査ノ際時宜ニ依リ數級ヲ進メ或ハ一級内ヲ細別スルコトヲ得セシム

同日 職工規則第三條ノ定期職工ハ當分ノ間女工ニ適用セス技女ハ女中ヨリ採用セシム

十月四日 二十七八年戰役以來軍隊被服用絨ノ需用非常ニ増加セシヲ以テ常ニ機械ノ全力ヲ盡シ晝夜執業セリ然ルニ夜間就業ノ職工欠勤者多數ニシテ事業上障礙少ナカラス因テ豫備ノ職工ヲ募集スルモ各地工場勃興ノ影響ヲ受ケ應募者甚ダ少ナク爲メニ製造高減退ノ傾キヲ呈シ焦慮ニ堪ヘザルモノアルヲ以テ職工獎勵ノ爲メ夜業四週間以上皆勤勉勵ノ者ニハ特ニ金八拾錢以内適宜給與ノコトヲ上申シテ許可ヲ得

同十三日 本月十八日以後夜業四週間ヲ一期トシ此期間皆勤勉勵ノ職工ニ對シ特別慰勞トシテ金五拾錢ヲ給與スルコトニ定ム

同十八日 職工取締ハ技術優等ノモノニシテ部下ノ職工ヲ指揮誘導シ自

職工夜業皆勤手當給與ノ件

職工取締増給

ラ其業ヲ執ルノミナラス製品其他物品ノ出納ヲモ掌リ其職務頗ル繁劇ニシテ一般職工ト同一ノ給料ノミニテハ難差置事情アルニ依リ取締ヲ命シタルモノニ限リ一ヶ月金貳圓以下増給支給ノコトヲ上申シテ許可ヲ得

同二十三日 製造部服務細則ヲ定メ各科業務手續ヲ廢ス

同二十五日 當所事務手續第十七條ヲ本日限り消除ス

同日 各科取締及取締心得ノ者ニ左ノ如ク増給ヲ支給スルコトニ定ム

一 取締 月額金壹圓五拾錢

二 取締心得 同 金壹圓

同日 當所事務員執務時間中第三項ヲ左ノ如ク改メ第四項ヲ追加ス

一 製造部技手ハ第一項ニ定ムル時間割ノ外工場執業時間ニ應シ
貳名以上出勤シテ工場ノ監督ヲ爲スヘシ但其時間割ハ技師之ヲ定メ所長ノ認可ヲ請フ可シ

一 工場休日ニハ工業掛ノ内壹名宿直シテ工場ノ取締ヲ爲ス可シ
十二月一日 定詰夫徹夜勤務ノ者ニ自今夜食料金參錢ヲ給スルコトニ定ム

絨名稱ヲ改ム

同十五日 當所事業擴張ノ議ハ先年既ニ決定セシカ其増築ニ關スル工事ハ悉皆臨時陸軍建築部ニ於テ擔任スル事トナリシカ(派出所ヲ當所構内ニ設ケ)本日ヨリ工事ニ着手スル事トナレリ

同二十五日 三十一年一月以降日曜休暇ハ一月十六日ヲ以テ初度ノ休日トシ爾後隔週ノ日曜日ヲ休日ト定ム

同三十一年一月六日 當所製造ノ紺絨種類ヲ三十一年度ヨリ左ノ如ク改定セラル

一號紺絨
一號二號三號四號紺絨ノ區別ヲ廢シ從前ノ四號紺絨ニ本名稱ヲ付ス

二號紺絨
從前ノ五號紺絨ヲ改稱ス

三號紺絨
從前ノ六號紺絨ヲ改稱ス

三月三十一日 會計検査官大内丑之助同検査官補伊藤乙亮外屬官四名本月二十三日ヨリ當所ニ出張本日ヲ以テ検査結了ス

検査官出張

明治三十一年度

明治三十一年四月十五日 新ニ當所ノ門標ヲ調製ス

同二十二日 汽罐掃除及諸機械手入ノ爲メ本月二十五日ヨリ五月二日マテ各工場休業ス

同二十七日 五月一日ノ日曜日ヲ休日トシ爾後隔週ノ日曜日ヲ以テ休日ト定ム

五月七日 製絨ノ實況視察トシテ侍從武官佐々木直ヲ當所ニ差向ケラル

同十二日 職工給渡方手續ヲ定ム

同十六日 昨三十年代以來濠洲羊毛ヲ「メルボルン」市「エル、レヅ、ギンソン」及「シドニー」市「ヒル、クラーク」商會ヨリ買收シタル成績ヲ本省へ上申ス

七月八日 屬大渡一ニ當所陸軍報告主任ヲ命ス

九月三十日 當分ノ内夜業監視補助トシテ工業掛一名宛夜間勤務ニ服セシム

同日 技手岩崎太七衛同渡邊述ニ大竹技師病氣不在中兩人申合ヒ技師ノ擔當ニ係ル諸般ノ業務ヲ處理スヘキヲ命ス

侍從武官差遣

官制中改正

十二月十五日 職工日給表中幼年工男ノ給額ヲ改定ス
同日 職工規則第二條中幼年工男ノ日給ヲ改定ス
同三十二年二月十五日 當所事務手續中改正
同日 絨類検査規程ヲ定メ絨類検査規則ヲ廢ス
三月二十九日 勅令第七十九號ヲ以テ當所官制中改正

明治三十二年度

明治三十二年四月十四日 製造部服務細則中追加
同日 機關擔當人心得書中工業掛ヲ機關手ニ改ム
同二十八日 氣罐掃除及諸機械手入ノ爲メ五月一日ヨリ十日マテ各工場休業ス
六月三日 去ル二十八年中製絨事業研究ノ爲メ歐洲へ派遣セラレタル當所雇員渡部謙吉ハ本日歸朝ス
同三十日 雇員渡部謙吉當所技師ニ任セララル
七月三日 職工慰勞金給與内則表中追加
八月十六日 曩ニ文部大臣ヨリ韓國人崔奎翼ナル者本年七月工業學校卒業ノ上製絨所ニ於テ現業ニ從事致度旨願出タル趣ヲ以テ陸軍大臣へ協議アリシカ同人ハ本日ヨリ當所ニ來リ就業セリ
十月四日 當所技師大竹多氣濠洲へ派遣ヲ命セララル
十二月十六日 職工慰勞金給與内則中改正
同三十三年一月二十九日 去歲濠洲へ派遣セラレタル當所技師大竹多氣

雇員歸朝

技師任命

技師濠洲へ派遣

ハ本日歸朝ス

同三十日 職工組合設置及ヒ心得ヲ制定シ二月五日ヨリ施行ス

二月二十八日 昨年來當所ニ於テ製絨事業實地研究ニ從事セシ韓國人崔奎翼ハ本日より退所ス

三月一日 陸達第十二號ヲ以テ陸軍平時傭人定員中改正守警四名小使二名増員セラル

大倉組「レヅ井」ノ後ヲ繼續ス

同七日 從來「濠洲」メルボルン「府」エル、レヅ井「ン」ヨリ購入スル羊毛ハ代理店合名會社大倉組ニ於テ一切ノ事務ヲ取扱ヒ來リシカ今回右「エル」レヅ井「ン」ノ「死去」ニ由リ取引上一切ノ事務ハ大倉組同地支店ニ於テ繼續スル事トナリタルヲ以テ同人名義ヲ以テ供給セシ羊毛ハ自今直接下命相成度旨願出タルニ因リ詮議ノ上之ヲ許可ス

同二十八日 絨類検査規定附表中毛布ノ欄三十三年度製造ノ分ヨリ改正ス

増築工場ヲ臨時陸軍建築部ヨリ受領ス

同三十一日 當所増築工場ハ漸次竣功ヲ告ケ本日左ノ通り臨時陸軍建築部ヨリ受領セリ

第一工場

(煉瓦造)

千七百六坪參合五勺

流籠室

(同)

百四拾壹坪九合九勺

流籠室附属煙突

(煉瓦造)

一個

掘井

一個

明治三十三年度

明治三十三年四月六日 機械手入ノ爲メ來ル八日ヨリ十四日マテ工場休業ス

五月二十六日 増築工場周圍土壘四百拾八間八分ヲ臨時陸軍建築部ヨリ受領ス

六月十四日 横濱着港ノ英國漁船「ロセッタ」號ベスト患者發生セシニ因リ同船積載ノ貨物ニ消毒施行アリタキ旨千住警察署ヨリ通知アリタルヲ以テ同警察署員ト協議ノ上該貨物ニ對シ嚴重ニ消毒ヲ行ヒタリ

同十九日 會計検査官三輪一夫検査官補伊藤乙亮外屬四名本月十五日ヨリ當所ニ出張本日検査結了ス

同二十七日 當所技手奥田早苗製絨業研究トシテ歐洲へ派遣ヲ命セララル

七月三日 當所技手奥田早苗歐洲へ派遣ヲ命セラレタルニ依リ歐洲着港ノ日ヨリ歸路出帆ノ前日マテ旅費規則ノ客舎料日當等ノ支給ヲ停止シ單ニ手當トシテ一ヶ年金千四百四拾圓支給ノコト并ニ出發前支度料ハ外國旅費規則第一號表ノ範圍内ニ於テ金百五拾圓支給ノコトヲ上申シ

検査官出張

技手歐洲へ派遣

夜業停止

テ許可ヲ得

同十一日 事務所出務時間本日ヨリ午後二時退出ノ處當分ノ内午後四時退出ト定ム

同二十日 本日二十三日ヨリ新築工場一部工業開始ニ因リ同日ヨリ當分ノ内夜業ヲ停止ス

同二十一日 製造部出務時間左記ノ如ク定ム

一 來ル二十三日ヨリ工場夜業停止ニ付製造部職員半數ハ午前六時マテニ出勤午後六時退出ト定ム

但部員ハ午前七時出勤午後四時退出ノ事

一 來ル二十三日ヨリ製造部職員技師ヲ除ク中一名宛宿直ヲ爲ス可シ

一 宿直ノ者ハ翌日正午退出スルコトヲ得

但休日當直ノ者ハ午前七時出頭前夜宿直員ト交代シ翌朝製造部職員出勤ノ上事務引繼退出スルコトヲ得

十月五日 染絨科職工夜番料一夜金拾錢ノ處明六日ヨリ一夜金拾五錢ヲ

増築工場敷地
ヲ臨時建築部
ヨリ受領

支給シ若シ夜番ニ當リ不時退場スルモノニハ左ノ割合ヲ以テ支給スルコトニ定ム

一 第一回ノ攪廻シヲ終リタル後退場セシ者ハ十分ノ二

二 第二回ノ攪廻シヲ終リタル後退場セシ者ハ十分ノ七

三 第一回ノ攪廻シ前ニ退場セシ者ハ夜番給ヲ支給セス

同十九日 當所職工規則中改正

同二十六日 織絨科女工準業給工規定ヲ定ム

同日 商標專用年限滿了ノ爲メ屢ニ續用願ヲ特許局へ差出セシカ本日登錄証ヲ交付セララル

十二月十一日 増築工場敷地九千八百四坪ヲ臨時陸軍建築部ヨリ受領ス

同日 三十四年ノ休日ハ一月十三日ノ日曜日ヲ以テ休日トシ爾後隔週ノ

日曜日ヲ休日ト定ム

二月六日 陸軍一等縫工長松田午三郎ハ昨年來當所ニ於テ製絨ニ關スル技術ヲ練習セシカ略ホ其概要ヲ知得セシヲ以テ本日限り退所セリ

同三十四年三月八日 當所ノ業務ニ從事シ疵傷ヲ受ケ服役ニ堪ヘサル定

建物ノ名稱ヲ
改ム

詰夫ニ對シ自今療養中日給ノ半額ヲ給スルコトニセリ
三月三十一日 使用變更ノ爲メ發電所ヲ試驗所ニ號石炭庫ヲ發電所ト改
稱ス

二號紺絨ヲ反
染トス

明治三十四年度

明治三十四年四月二十三日 軍隊用二號紺絨ハ從來ノ毛染法ヲ廢シ自今
反染法ニ改メラル

五月九日 機械手入ノ爲メ本月十一日ヨリ同十八日マテ染絨科ヲ除キ舊
工場一般休業ス

六月二十五日 機械手入ノ爲メ本月二十七日ヨリ同二十九日マテ新築第
一工場休業ス

七月二十二日 陸海軍人ニ賜ハリタル勅語棒讀式ヲ施行ス

同日 當所物品會計事務手續ヲ改正ス

十月二十六日 藍染所一棟修繕ス

同三十日 陸軍省ヨリ物品検査ノ爲メ齋藤監督補及佐々屬當所ニ出張

十一月八日 後備陸軍三等軍醫正山崎桂策ニ當所工場衛生顧問並ニ職工

負傷患者ノ治療ヲ囑託シ手當トシテ一ケ年金參百圓ヲ給與ス

同十四日 醫師樋口玄誠ノ囑託ヲ解ク同人ハ當所創業以來二十有余年終
始懇篤ニ職工ノ負傷患者ヲ治療シ其功勞少ナカラサルヲ以テ今回解囑

勅語棒讀式

陸軍省ヨリ出
張

職工賞與ノ件

ニ際シ許可ヲ得報酬トシテ金貳百圓ヲ贈與ス
 同二十一日 大藏省屬藤坂甲子太郎帳簿金櫃検査ノ爲メ當所ニ出張
 同二十五日 瀝鏽掃除ノ爲メ本月二十八日ヨリ三十日マテ工場休業ス
 同日 守警採用及罷免規則ヲ定ム
 十二月二十四日 明治三十五年ノ休日ハ一月十二日(日)曜ヲ休日トシ爾後
 隔週ノ日曜日ヲ以テ休日ト定ム
 十二月二十四日 職工ノ賞與ハ明治二十二年六月及同年十二月許可ノ上
 實施シ來リシモ中ニハ病氣等ノ爲メ欠勤日數多キモ業務ニ非常勉勵ノ
 者アルヲ以テ自今賞與スヘキ職工總人員ニ對シ日給十五日分ヲ乘シタ
 ル金額内ヲ以テ彼是増減給與ノコトヲ上申シテ許可ヲ得
 明治三十五年二月十四日 明治十四年購入ノ瀝鏽一個ハ漸次老朽ニ屬セ
 シト諸機械増加ノ爲メ蒸氣力ノ不足ヲ感セシトニ依リ新瀝鏽ト交換シ
 現今不用ニ屬セリ然ルニ被服廠新設ノ靴工場ニ必要ノ瀝鏽ニ適當ノ趣
 ヲ以テ讓渡ノ義同廠長ヨリ照會越セシニ依リ保管轉換トシテ同廠ヘ引
 渡ノコトヲ上申シテ許可ヲ得

廢品處分ノ事項
 陸軍監督部長ヨ
 リ所長ニ委任ス

増設工場ノ地
 所建物及機械

官制改正

三月四日 陸軍監督部長ヨリ陸軍作業會計ニ屬スルモノニシテ陸軍物品
 會計規程第十七條ニ依リ物品ノ備付ヲ要スルトキ及陸軍監督部條例第
 五條ニ依リ承認スヘキ廢品處分ノ事項ヲ當所々長ニ委任スル旨通牒ア
 リタリ
 同七日 本月九日ノ休日ヲ廢シ十六日ノ日曜ヲ休日トシ爾後隔週ノ日曜
 日ヲ以テ休日ト定ム
 同十二日 職工規則第二十二條中改正
 同二十八日 勅令第八十四號ヲ以テ當所官制改正所長ノ次ニ事務官ヲ置
 カル
 同三十一日 當所増設工場ハ建築成ルニ從ヒ臨時陸軍建築部ヨリ假ニ受
 領シ機械ノ据付ニ着手セシカ諸工事ヲ總テ竣工セシニ依リ本日ヲ以テ
 本受授ヲ完了セリ其増設工場ニ係ル地所建物及機械ノ名稱員數金額ハ
 左表ノ如シ

地名	坪數	金額
地所	九、八〇七、〇〇	三三、二八二、三三一

物

名稱	坪數	金額
第一工場	一,七〇六 ^坪 三五	六八,四二四 ^圓 、四六九
第二工場	一,四一九九	七,一三八、八〇二
發電所	一,七〇六、三五	七五,三七一、四三九
第一號染物場	四〇,〇〇	二,〇五八、三三〇
第二號染物場	一六一,〇〇	八,八一〇、三二〇
鍛工場	一六一,〇〇	九,〇四三、六三〇
河水唧筒場	四〇,〇〇	二,九五二、七三三
二號	一六,〇〇	二,三四二、五一九
三號	七,二五	二七八、一六七
四號	七,二五	二七八、一六七
五號	七,二五	二七八、一六六
六號	四,五〇	一六六、五〇〇

七號	四,五〇	一六六、五〇〇
工場南渡廊下	三〇,〇〇	五九〇、九二八
工場北渡廊下	三〇,〇〇	五九〇、九二八
蒸絨場	一七,五〇	九一一、九一六
九號	三,〇〇	一八九、九二八
十號	四,五〇	二七一、五八五
職工食堂	一〇五,〇〇	二,六二五、〇〇〇
湯沸所	一〇,〇〇	三三三、一〇〇
守警詰所	一七,五〇	五八二、三八〇
事務所	二〇,〇〇	八八四、〇四〇
一號	一,〇〇	五九、〇〇〇
八號	一,〇〇	六三、九四三
一號	一〇八,〇〇	六,〇二二、四五九
二號	一〇八,〇〇	六,〇二二、四五九
表	一	一四七、四五三

名 稱	機 械	數 量	金 額
裏 門		一	六〇,〇〇〇
煙 突		一	三,〇九九,二二二
計			二〇〇,〇三二,二四九
蒸 氣 機	機 械	四 臺	二三,六〇八,〇〇〇
蒸 氣 鍋		六 臺	四二,〇八七,〇〇〇
ボ ン ブ		八 臺	七,二二九,五七二
發 電 機	機 械	一 臺	六,二三六,五〇〇
ダ ラ イ バ ン		一 臺	一,六六七,〇〇〇
ボ ー ル バ ン		二 臺	五七九,〇〇〇
洗 毛 機	機 械	二 臺	一六,二四九,五九八
乾 毛 機	機 械	二 臺	一三,五四一,三三〇
搾 機	機 械	四 臺	三,六四二,〇〇〇
螺 旋 打 毛 機	機 械	二 臺	一,八〇三,〇〇〇

割 毛 機	機 械	二 臺	一,四七四,〇〇〇
撮 苜 蓿 機	機 械	三 臺	四,七三〇,〇〇〇
撻 毛 機	機 械	一 臺	四六二,〇〇〇
工 毛 刷 毛 機	機 械	一 臺	一,〇四一,〇〇〇
蒸 氣 刷 毛 機	機 械	一 臺	五八二,〇〇〇
乾 絨 機	機 械	二 臺	一一,七七三,〇〇〇
織 絨 機	機 械	九十四 臺	五六,九三五,八九八
紡 毛 機	機 械	十四 臺	七六,一七四,〇〇〇
刷 毛 機	機 械	三 臺	一,二九五,〇〇〇
磨 針 機	機 械	四 臺	一,一九〇,〇〇〇
繰 返 機	機 械	三 臺	一,二三一,〇〇〇
整 紡 機	機 械	十一 臺	三三,〇六五,〇〇〇
整 經 糊 經 乾 經 機	機 械	四 臺	一二,四七八,〇〇〇
卷 機	機 械	四 臺	一,八〇〇,〇〇〇
起 毛 機	機 械	八 臺	七,八四六,〇〇〇

經剪機	四臺	五、六四四、〇〇〇
絨卷機	一臺	二、一一二、九四〇
縮絨機	十八臺	一〇、七一〇、〇〇〇
洗絨機	十臺	三、一五〇、〇〇〇
蒸絨釜	二臺	二四七、〇〇〇
染色機	二臺	四、一四〇、二九四
起重器	一臺	四九二、〇〇〇
打絨機	一臺	四六五、五〇〇
油毛機	三臺	三、九五〇、〇〇〇
毛布用「ミシン」機械	二臺	四四〇、八三二
染絨器	九臺	二、三八三、五九〇
鐵製水溜	四	一、五二二、三七五
分水器	二	二五二、八〇〇
「フルツエンボック」	二	八〇、〇〇〇
傳力軸眞	二千百八十尺六寸七分	二五、四二二、四九三

「カ ラ ン」	四十二	三五三、六〇〇
銅管	七千九百七十一尺五寸	四、六七七、八五四
鐵管	三千二百六十一尺五寸	七七一、九七六
煖管	千三百九十八尺六寸	二、七七四、七三三
計		三九七、三九〇、八八三

明治三十五年度

所長交迭

明治三十五年四月十七日 所長内海春震願ニ依リ本官ヲ免セラレ當所技

事務官任命

師工學博士大竹多氣所長ニ任セララル

五月二日 税關監視官兼税關事務官阪口新圃當所事務官ニ任セララル

同十二日 諸機械手入ノ爲メ本日ヨリ十九日マテ工場休業

同二十四日 屬大渡一ノ報告主任ヲ免シ事務官阪口新圃ニ報告主任ヲ命

ス

同三十日 六月一日ヨリ事務所及ヒ工場毎日曜日ヲ以テ休日ト定ム

同日 從來當所ニ於テ使用スル器機其他物品中特種ノ性質又ハ特別使用

ノ目的アルカ爲メ競争購買ニ附シ難キモノハ隨意契約ニ依リ購買取計

度旨上申セシニ製造ノ場所又ハ製造者ヨリ直接買入ヲ要スル場合ニ限

リ許可セララル

屬臨時賞與

六月五日 當所屬大渡一ハ明治九年内務省勸業寮ニ羅紗製造掛設置セラ

ル、ヤ創立事務擔當ヲ命セラレ爾來二十有五年ノ久シキ當所ニ奉職シ

工場地ノ撰定新舊工場ノ經營其他諸規則ノ起草等重要ナル事務ハ一モ

關與セサルナク其効績顯著ナルヲ以テ病氣危篤ニ際シ臨時賞與トシテ
金參百圓給與ノコトヲ上申シテ許可ヲ得

各部隊委託絨
直接發送

事務官清韓へ
派遣

在「シドニー」
帝國領事館

六月二十三日 所内井水ノ飲用ノ適否ヲ東京衛生試驗所ニ託シテ試驗セリ
同二十六日 陸達第七十八號ヲ以テ雇員傭人給料支給規則中改正セラル
七月八日 陸軍被服廠長ノ協議ニ依リ各部隊委託品中絨類及ヒ厚毛布ハ
事務省署ノ爲メ當所ヨリ直接各部隊へ發送スルコト、爲セリ
九月六日 當所事務官阪口新圃清韓兩國へ出張ヲ命セラレ本日出發
同日 當所顧問醫山崎桂策辭職セシヲ以テ更ニ當所顧問醫ヲ岩佐病院内
醫學士高田壽ニ囑託ス
同日 濠洲羊毛取引上ノ事項ニ關シ當所長ト在「シドニー」帝國領事館ト
直接通信ノコトヲ外務大臣ニ於テ承認セル旨陸軍省經理局長ヨリ通知
アリタリ
十一月七日 本月九日ヲ休ミ爾後隔週日曜日ヲ以テ休日ト定ム
同十五日 屢キニ清韓兩國へ出張ヲ命セラレタル當所事務官阪口新圃ハ
本日歸朝ス

購入機械

十二月三日 流鏝掃除ノ爲メ本月五日ヨリ九日マテ工場休業ス
同二十七日 ベスト病本所區内ニ發生シ蔓延ノ兆アルニ依リ三日間大掃
除ヲ執行シ且ツ各自注意ノ事項ヲ所内一般ニ告達セリ
明治三十六年一月二十二日 陸軍省總務長官ノ通知ニ基キ所員以下健康
診斷執行ノ爲メ軍醫派遣ノコトヲ上申セシカ各部隊健康診斷ノ爲メ派
遣シ難キ旨通知アリタルヲ以テ囑託醫ト協議ノ上醫員二名出張セシメ
五日目毎ニ健康診斷ヲ執行スルコト、ナセリ
三月二十五日 ベスト豫防ニ關スル健康診斷ハ今日ノ狀況繼續ノ必要ナ
キヲ以テ廢止セラレタキ旨陸軍省總務長官ヨリ通知アリタリ
本年度中作業費ヲ以テ購入セシ重ナル機械器具ハ左ノ如シ

織機	一臺	四二七、九七五
節炭機	二組	二、八六八、五四〇
搾絨機械	一個	一三四、六〇〇
ジツガー	一個	四八八、九〇〇
計		一一、九二〇、〇一五

臨時陸軍建築部名古屋之部ヨリ保管轉換受入ヲ爲シタル器具左ノ如シ

運搬車

三十臺

二、四八二、二〇〇

明治三十六年度

明治三十六年四月一日 從來一時的ノ目的ヲ以テ健設シタル假物置其他
ヲ調査シ固定資本ニ編入ス

全二十五日 瀝離掃除ノ爲メ本月二十七日ヨリ五月ヨリ五月三日迄舊第

一、第二、第三、第四ノ各工場及ヒ新築第二工場休業ス

五月一日 陸達第四十四號ヲ以テ陸軍平時傭人定員表改正

全十一日 當所敷地東南ニ常レル部分排水不良ノ爲メ東京府ノ同意ヲ得

テ公路北側ニ排水土管敷設ス

全十五日 舊官舎ハ從來閉鎖シ置キタリシカ漸次破損シ保存上修理ヲ要

セシニ因リ修理ヲ加フ

全二十六日 本日午後五時頃第一工場付屬煙突ニ落雷セシモ幸ニ損害ナ

シ

六月十九日 臨時傭入ノ職人及ヒ人夫ノ勤務時間九時間ヲ十時間ニ改ム

七月四日 橋梁及ヒ溝渠ヲ固定資本ニ編入ス

全九日 本月十二日ヨリ事務所工場共毎日曜日ヲ以テ休日ト定ム

橋梁及ヒ溝渠

厚毛布ニ徽章ヲ捺染ス

全十三日 本月十五、十六兩日工場休業
 八月三日 本日工場休業ス
 全十三日 侍從職ヨリ第五回勸業博覽會御用品刺球蘇實百五拾貳個入壹箱受領
 全十七日 從來守警ニハ暑中休暇ヲ與ヘザリシガ自今五日間ノ休暇ヲ與フコト、セリ
 全二十日 當所技手奥田早苗石坂正衛安達若松ノ勤務演習并ニ簡閱點呼免除ノコトヲ上申シテ許可ヲ得
 九月十七日 陸達七十九號ヲ以テ各部隊ニ支給スル厚毛布ハ黑色縦線ノ織込ニ代ヘ其一隅ニ徽章及ヒ製作年次ヲ黑色ニ捺染スルコト、ナル
 全十九日 大雷暴雨午前九時頃室内闇黒一時燈火ヲ使用ス
 全二十五日 陸達第八十號ヲ以テ雇員傭人給料支給規則備給表備考中改正
 全二十八日 大坂衛戍監獄ノ照會ニヨリ囚徒用毛布ニ陸軍監獄ノ章ト製作年度ヲ捺染スルコト、セリ

技手歸朝

會計検査官出張

全三十日 新築工場付屬ノ節炭機雨覆ヲ新設ス
 十月二十三日 職工食堂ニ藥罐ヲ備ヘ付クルコトニ定メ左ノ通り取扱方ヲ通達セリ
 一 藥罐ハ一個六人ニテ使用ノ事
 二 此藥罐ニ茶ヲ入ル、コト不相成事
 三 取扱ヲ大切ニスヘキ事若シ取扱ノ粗漏ヨリ破損スルトキハ辨償セシムル事
 四 藥罐ヲ食堂外ニ持出スヘカラサル事
 全二十三日 汽罐掃除ノ爲メ來ル二十六日ヨリ十一月二日マデ工場休業
 全二十八日 製絨業研究ノ爲メ歐洲ニ出張中ノ奥田技手ハ本日歸朝
 全日 左ノ祝日ニハ事務所工場共休業ト定ム
 一 新年宴會
 一 紀元節
 一 天長節
 十一月九日 去月二十九日以來會計検査院ヨリ検査官大嶋永憲屬山岡隆

陸軍監督部検査

貞全久保田克潔全與村信夫當所ニ出張検査中ノ處一昨七日結了退出セリ

全十一日 陸軍監督部ヨリ片山部長桐原一等副監督外一名出張全十四日検査結了退出セリ

十二月二十二日 北豊嶋郡南千住町大字千住南字大門七百三十三番地ノ二參拾坪ハ當所創立ノ際功勞アリタル故千住製絨所長井上省三紀念碑敷地トシテ當時ノ職員及ヒ職工中有志ノ職金ヲ以テ買入レ紀念碑ヲ建設シ當所屬大渡一名義人トシテ之ヲ管理シ來リシカ全人死亡ノ爲メ相續人大渡元ヨリ上地ヲ出願セリ因テ聽許相成度旨上申セシニ十二月二十八日送乙第三〇七二號ヲ以テ本省副官ヨリ右ノ如キ將來ニ使用シ難キ地ヲ官有地トシテ編入スベキ必要ヲ認メザルニ依リ聽許不相成旨通知アリタリ(三十七年四月廿七日記事參照)

十二月十日 技手與田早苗當所技師ニ任ゼラル

全十九日 明二十日ノ休業ヲ廢ス

全二十三日 日露ノ間風雲急ナリ本日ヨリ當分ノ間工場ノ一部晝夜業ニ

技師任命

夜業開始

休業廢止

緋毛布染替

臨時事件費ヲ以テ羊毛ヲ購入スルコト

蒸氣科職工宿直手當

從事セシム

全二十六日 當分事務所及工場ノ休業ヲ廢ス

全日 緋毛布染替緊急ヲ要シ十二月三十一日ヨリ翌年一月七日迄之ニ關スル職工ニ割増給ヲ給セリ

明治三十七年一月八日 火災ノ注意ヲ訓達ス

全十日 本月十二日ヨリ工場漸次夜業ニ着手セシム

全日 本月十五日十六日ノ兩日工場ヲ休業シ倉庫及工場ノ棚卸調査ヲ施行ス

全日 本月三十一日ノ日曜日ヲ休日トシ爾后隔週ノ日曜日ヲ休日ト定ム

全十五日 防火準備ノ爲メ工場休業ノトキハ蒸氣科職工一名宿直セシメ手當トシテ一回金拾錢ヲ給スルコト、セリ

全十六日 臨時事件費金九拾壹萬圓ヲ以テ陸軍臨時所要ノ羊毛ヲ購入シ現品ハ陸軍被服廠ニ引渡スヘキ旨達セララル

全二十二日 從來製造部使用ノ大工小屋ハ新舊工場ニケ所ニ分レ監督上不便ナルヲ以テ第三工場裏假物置ヲ修理シテ大工小屋ニ使用ス

特別増給

全二十六日 時局ニ關シ買入タル羊毛染料等ヲ收容スル爲メ假物置二棟
新築ノコトヲ上申シテ許可ヲ得
全二十七日 本日ヨリ三十日マデ夜業ニ従事スル職工ニ對シ毎夜金五錢
ヲ増給ス

特別慰勞金

全日 夜業皆勤ノ職工ニ特別慰勞金ヲ給スルコト、セリ
全二十九日 經理局長ヨリ防火準備ニ關シ注意アリタルヲ以テ再ヒ所員
ニ訓達ス

棧橋及浮船

二月六日 三十七八年戰役開始
全八日 在來溝渠ノミニテハ運搬上停滯ヲ免レサル爲メ荒川岸椎橋孝三
郎所有地五拾壹坪ヲ借入レ棧橋及浮船ヲ設置シ溝渠ノ右岸ニ沿ヘ輕便
鐵軌ヲ敷設セリ

定時間外勤務者

全十一日 定時間外勤務者ニ對シ本日ヨリ陸軍戰事給與規則細則第十八
條末項ニ依リ食料ヲ給ス

陸軍戰時給與規則ニ依リ増給

全十三日 陸軍戰時給與規則第十六條ニ依リ増給ヲ給ス
全十五日 第三工場裏ニ毛屑溜一ヶ所ヲ新設ス

防火貯水池

全十七日 新築第一第二工場間ニ防火貯水池ヲ新設ス

戰時中執務時間

全二十三日 職工晝夜交代ノ爲メ隔週日曜日夜間ノミ休業スルコト、ス
全日 事務所執務時間ヲ十一時間ト定ム

唾壺配置

全二十五日 本年二月内務省令第一號ニ依リ肺結核豫防ノ爲メ事務所及
工場ニ唾壺ヲ配置ス
全日 曩ニ大渡元ヨリ願出タル故千住製絨所長井上省三紀念碑敷地ニ關
シ再ヒ事情ヲ悉シ進達セリ

三月一日 今回ノ事件ニ關シ二月六日ヨリ戰時ト定ムルコトニ閣議決定
ノ旨通知アリタリ

全十五日 夜業開始ノ結果一層工業ノ正確ノ期シ職工ノ勤適否ヲ監視ス
ルノ必要ヲ認メ工業掛ヲシテ技手ノ職務ヲ補助セシム

全日 定詰夫二十四名ヲ二十七名ニ増加ス
全二十九日 陸軍省副官ヨリ本月二十六日大藏省令第六號ヲ以テ土地臺
帳規則施行細則改正ノ結果將來拂下等ノ場合ニ保存登記ナキ分ハ拂受
者ニ於テ登記ヲ完了シ得サルコト、ナリタルヲ以テ登記漏ノ分ノ此際

職工食事時間
ヲ就業時間ニ
算入ス

職工慰勞金給
與内則中改正

取締増給規定
中追加

購入機械

登記取計ハレタキ旨通牒アリタリ

全三十日 製造部服務細則中改正

同三十一日 四月一日ヨリ職工ノ食事時間ヲ就業時間ニ算入シ給料ヲ支給スルコト、セリ

全日 病氣若クハ私用ノ爲メ中途退場スル職工ニ對シ給料ノ支給方ヲ定ム

全三十一日 職工慰勞金給與内則第六條ヲ左ノ如ク改ム

職工規則第二十條ニ依リ處分ヲ受ケタル者ハ處分ノ度數又ハ輕重ニ依リ慰勞金ヲ減シ若クハ給セサルコトアル可シ

全日 職工取締及取締心得増給規定中左ノ一條ヲ追加ス

取締又ハ取締心得ノ者其職務ヲ怠リ又ハ配下取締方不行届ナルトキハ増給ヲ支給セス

全日 第二工場付屬井戸ノ涌水減少セシヲ以テ百七拾八間余ヲ掘下タルモ成績佳良ナラス

本年度中作業費ヲ以テ購入セシ重モナル機械器具ハ左ノ如シ

毛布染直シノ
件

蒸汽機械	一	臺	二、一七〇、〇〇〇
汽罐(宮原式)	一	個	五、七〇〇、〇〇〇
「ボンブ」	二	臺	八〇〇、〇〇〇
發電機	一	個	一、二八〇、〇〇〇
織機械	七	臺	五、四一六、六九〇
光澤機械	一	基	一、八八九、五〇〇
瓦斯機關	一	個	七六〇、九〇〇
染絨器	五	個	二、〇八五、四〇四
計			二〇、一〇二、四九四

本年度十二月中陸軍被服廠ノ依頼ニ應シ厚毛布(赤)ヲ鼠色ニ染直シタリ其數量及代價ハ左ノ如シ

厚毛布 四萬四千枚

此染直代金壹萬壹千圓 一枚金貳拾五錢

此染直シ工事ハ頗ブル緊急ヲ要シタル者ナルヲ以テ職工ヲ督勵シテ迄速ニ被服廠ノ希望ヲ滿シタリ此工事終リテ間モナク三十七八年戰役ハ開始

明治三十七年度

明治三十七年四月二日 機械手入ノ爲メ三日ヨリ九日迄工場休業

侍従武官差遣

全七日 侍従武官陸軍歩兵少佐伊藤瀬平ヲ當所ニ差遣セラル衣糧課長俣

賀致正全道來所當日當所ヨリ同武官ニ提出シタル書類左ノ如シ

- 一 職員現在表
- 二 千住製絨所累年統計表
- 三 三十六年度絨類製造高表
- 四 全羊毛購入高表
- 五 全染料購入高表
- 六 全石炭購入高表
- 七 全作業受拂勘定表
- 八 職工現在表
- 九 職工賃金表
- 十 三十七年度絨類製造高豫定表
- 十一 明治三十六年中各科作業工程表

又左ノ如ク當時ノ現況ヲ叙述シテ呈出セリ

千住製絨所作業ノ現況

一 原料

昨年末以還露國トノ外交關係層々急迫ノ報ヲ傳フルヤ當所ノ工業原料タル羊毛染料等ハ多ク外國産ニ屬スルヲ以テ萬一不幸ニシテ露國ト弊端ヲ開キ海上ノ交通危険ナルニ至ラハ之カ輸入ニ一大困難ヲ生シ爲メニ軍隊被服ノ給養ヲ闕カンコトヲ憂ヘ乃チ之カ準備ニ着手シ開戦前ニ於テ既ニ當所ノ普通使用高以外ニ羊毛約八拾萬封度此價額約五拾七萬圓染料拾萬圓ノ購買ヲ決シタリ是ヨリ以上ノ準備ハ到底當所運轉資本ノ容サ、ル所ナリシカ幸ニ主管廳ニ於テモ茲ニ省ミル所アリテ臨時事件費九拾壹萬圓ヲ以テ羊毛ノ購買ヲ當所ニ命セラレタリ此ニ於テ當所ノ戰時準備ハ全ク遺憾ナキヲ得タリキ然ルニ開戦勿々我海軍ノ捷報頻々トシテ到リ海上ノ權ハ幾ント我ニ歸シ今ヤ原料品ノ購買モ敢テ困難ヲ感セサルニ至リタレハ當所ノ準備ハ全ク杞憂ニ歸シタリト雖モ邦家ノ爲メニハ賀スヘキナリ

二 工業

工業ニ付テハ昨年十二月ヨリ職工ノ増募ニ着手シ全月二十三日ヲ以テ工場一部ノ夜業ヲ開始シ更ニ本年一月十日ヲ以テ工場全部ノ夜業ヲ命シ大晦日元日等ノ休日ニハ特ニ職工ニ割増給ヲ與ヘ夜業二週間繼續者ニハ慰勞金ヲ給シテ其就業ヲ觀獎シ又職員ノ配置職工ノ監督ニ改良ヲ加ヘ職員ヲシテ職工ト全シク晝夜十二時間ノ交替勤務ニ服セシメ以テ銳意製造力ノ増加ヲ勵メツ、アリ故ニ本年度ノ製造高ハ別表ノ如ク四百八拾萬尺ニ達ス即チ昨年度製造高ノ二倍強ナリ

三 設備

現工場ハ廿七八年役後ニ於テ軍備擴張ト共ニ従前ノモノニ倍加タシル者ニシテ爾後全工場ノ諸機械ヲ運轉シタリト雖モ平時ハ晝間ノ執業ニテ敢テ製造力ノ不足ヲ覺ヘザリシナリ其全力ヲ盡シテ晝夜ノ業ニ従事スルニ至レルハ實ニ今回ヲ以テ始トス是ニ於テ倉庫物掲場ノ不充足電燈ノ不足等ヲ感ズルニ至レルヲ以テ場内ニ假物置ヲ新設シ荒川畔ニ棧橋ヲ建設シ瓦斯機關ヲ購ヒ發電機ヲ増ス等諸種ノ設計ヲ施

シ以テ本所設備ノ充實ヲ謀リタリ
四警 備

被服給養ノ完キト否トハ我カ陸軍ノ戰鬪力ニ影響スルコト少ナク
ス故ニ戰時ニ於ケル當所ノ責任ハ非常ニ重大ナリ今ヤ我國未曾有ノ
大軍ヲ沍塞ノ異域ニ動カシ被服ノ需要無限ナルニ當ノ萬一過チテ當
所ノ作業ニ障礙アラシカ國家ノ不幸之ニ過クルハ勿ルヘシ此ヲ以テ
本官ハ屢次職員及ヒ職工ヲ警戒シテ失火ノ豫防ヲ猛省セシメ一面人
夫ニ命シテ防火演習ヲ勵行シテ遺漏ナキヲ期シ居レリ

全七日 溝渠ノ一部埋立ノコトヲ上申シテ許可ヲ得

全二十七日 曩ニ大渡元ヨリ上地ヲ願出タル故千住製絨所長井上省三紀
念碑敷地北豊嶋郡南千住町大字千住南字大門七百三十三番ノ二市街宅
地參拾坪ハ内務大臣ヨリ許可セラレタルヲ以テ本日東京府ヨリ受領登
記ヲ了ス

五月六日 織絨科工女準業給工規定第二條第四號中金七厘トアルヲ金八
厘ト改ム

當所敷地

同八日 新築一號染物場屋根其他木部總体ニ腐朽セシタメ模様替修理ノ
コトヲ上申シテ許可ヲ得

六月三日 守警服務心得ヲ改正ス

同六日 當所敷地ハ明治九年以來數回ニ民有地ヲ買收シタルモノニシテ
一筆毎ノ反別ハ詳ナラサルヲ以テ東京府廳へ照會ノ上舊番號ヲ抹殺シ
左記ノ五筆ニ改メ保存登記ヲ了ス

北豊嶋郡南千住町大字千住南

六 畝 步

字櫻田四百八十七番ノ二

貳段六畝拾步

同 同 上 字 大門六百九十六番

並町九反一畝二

同 同 上 字 菅谷百五十六番

十一町三段四畝二

同 同 上 字 若宮三百七十七番ノ一

八二步四畝三毛十

民有地買收ノ
件

同八日 民有地買收ノコトヲ上申シテ許可ヲ得其要ニ曰ク時局ニ關シ當
所ニ於テ使用スル處ノ羊毛染料石炭等非常ニ多額ニ上リ倉庫又ハ石炭
貯藏所等ノ建物ヲ要スルモ其餘地ナク曩ニ購買ヲ命セラレタル羊毛ノ
如キモ赤羽又ハ築地ニ於ケル被服廠ノ倉庫ニ庫人シ置ク状態ニシテ作

豫備費支出

業上ノ不便不利尠ナカサレヲ以テ當所ト荒川トノ間ノ民有地南千住町大字千住南字菅谷ノ内壹千貳百五拾壹坪及新舊工場間ノ民有地南千住町大字千住南字大門ノ内壹千三百六坪八合四勺ヲ買收シ當所敷地ニ編入シ以テ運搬ノ敏活利便ヲ圖リ或ハ假物置又ハ石炭貯藏場等ヲ建設致度因テ土地買收費金參萬五千五百五拾貳圓拾貳錢七厘建物等移轉料金六千參百七拾貳圓四拾四錢貳厘合計金四萬千九百貳拾四圓五拾六錢九厘ヲ臨時軍事費ヨリ支出ノコトヲ上申シテ許可ヲ得

同十三日

時局ニ關シ豫算外ニ多數ノ軍絨製造ヲ要シ豫備費ノ支出ヲ申請シ六月二十四日大藏大臣ノ承認ヲ得タリ其金額左ノ如シ

- 一金六拾萬圓
- 材料素品購買費

- 內
- 金四拾七萬圓
- 獸毛及毛糸
- 金拾參萬圓
- 染料

反毛工場新設

七月二日 反毛工場新設ノ件ヲ上申シテ許可ヲ得タリ其要ニ曰ク時局ニ關シ當所ニ於テ製造スル處ノ絨類ノ産額ハ非常ニ大數ニ上リ從テ之レ

豫算超過支出許可

ニ要スル原料タル羊毛ノ大部分ハ悉ク海外ヨリ購入スル所ナルヲ以テ戰況ノ如何ニ因テ其購買ニ困難ヲ感スルコトナキヲ保セズ特ニ之レニ相當スル莫大ノ金額ハ皆海外ニ仕拂フモノニシテ軍國多事ノ今日頗ル遺憾トス然ルニ軍隊ニ於テ使用スル毛織物被服ハ使用後適當ノ工作ヲ施ストキハ人工毛トシテ原料ニ使用シ得ヘク被服裁縫屑モ亦同法ニヨリ原料ニ供シ得ヘク而シテ此等ノ人工毛ハ新鮮ナル羊毛ニ比ストキハ強力彈力等ヲ缺クヲ以テ人工毛ノミニテ絨類ヲ製造スルハ不可爲ニ屬スレトモ新鮮ナル原毛ニ幾分ノ人工毛ヲ混和スルハ經濟上頗ル有利ナルヲ以テ反毛所ヲ新設シ廢物利用ノ作業ヲ經營致度因テ建造物及機械器具費金七萬九千百參拾四圓ヲ臨時軍事費ヨリ支出ノコトヲ上申シテ許可ヲ得

同四日 曩ニ豫備費ヨリ六拾萬圓ノ増額アリタルモ尙ホ不足ヲ告ケタルヲ以テ豫算超過支出ヲ申請シ八月十三日許可ヲ得

同十一日 汽罐掃除ノ爲メ本月十六日工場休業同十七日夜間ノ休業ヲ廢シ同夜就業ノ職工ニ金參錢ヲ増給ス

同十九日 織絨科女工準業給工規定ニ左ノ二項ヲ追加ス

一廿號絨ハ織機一臺ヲ使用シ織上高一碼ニ付金壹錢貳厘ヲ支給ス

但緯糸打込廿五ミリメートル中三十二本ヲ欠クヘカラズ

一廿號絨織濟ヨリ新ニ織リ始ムル迄ノ時間ニ對シ織上高九碼ヲ見込

ミ之ヲ當日ノ織上高ニ加算ス

同二十日 織絨科女工準業給工規定中當分ノ間三號絨緯打込ミ二十七本

ドアルヲ二十四本廿號絨緯打込ミ三十二本トアルヲ二十八本トスルモ

妨ケナキコトトシテ實行セリ

同二十五日 時局ノ爲メ豫算ニ不足ヲ生ジ左記ノ通り作場費石炭購買費

ヘ増額ノコトヲ申請シタルニ八月九日閣議決定ノ旨衣糧課ヨリ通知ア

リタリ

一金四千五百七拾壹圓參拾貳錢九厘

八月五日 當所警備ノ爲メ衛兵ノ派遣ヲ衛戍總督部ニ具申セリ

同十一日 滿發第二二七號ノ通牒ニ基キ所員ヲシテ二十四年陸達第四十

二號規定ノ徽章ヲ上衣及外套ノ左臂ニ附着セシム

衛兵派遣

九月一日 本日ヨリ衛兵當所ヲ警衛ス

同十日 貨物置場貨物出入口柵矢來通用門袴腰付土壘在來地盤盛土及砂

利敷等新營ノ爲メ臨時軍事費ヨリ金八千參拾貳圓四拾七錢八厘支出ノ

コトヲ上申シテ許可ヲ得

同十一日 時局ニ關シ勵精勤務ノ慰勞トシテ陸軍大臣ヨリ職員以下職工

人夫ニ金四百八拾八圓六拾錢賜與セラル會々遼陽陷落ノ詳報達セルヲ

以テ本日祝賀會ヲ開キ紀念品ヲ分配ス當日衣糧課長俣賀致正同課員加

藤貞次郎來賓トシテ來所ス

同十七日 曩ニ民有地買收ノ際土地所有者中買收ニ應セサルモノアリシ

ガ爲メ新舊工場ニ於テ八百八拾參坪ノ土地ヲ殘シ其餘ヲ買收シタルニ

昨今ニ至リ所有主ヨリ隣地相當代價ヲ以テ賣渡シタキ旨申出タリ右土

地ハ時局ニ關シ當所敷地ノ擴張ニ必要ナルノミナラズ里道ヲ當所敷地

ニ合併シテ兩工場ノ連絡ヲ通スル計劃ニ付テモ必要ナルヲ以テ買收相

成度又當所新工場東南角ヨリ新町通りニ至ル新道路ヲ築造スルコトハ

當所職工ノ交通及貨物ノ運搬上ニ必要ナルノミナラズ東京府知事ニ於

民有地買收ノ件

民有地買收
件

テモ希望セルヲ以テ道路敷地百十九坪五勺ヲ買收シ初回ノ工事ニ限リ
當所ニ於テ負擔經營シ竣工ノ上ハ東京府へ引渡之レニ要スル總計金
壹萬五百圓六拾貳錢七厘ヲ臨時軍事費ヨリ支出ノコトヲ上申シテ許可
ヲ得

同日從來當所新舊工場間ニハ少許ノ民有地ト一條ノ里道(菅苗道)トノ介在
スル爲メ已ムヲ得ズ兩工場間ニ交通路ヲ設ケ里道ノ上ニ棧橋ヲ架シテ
其連絡ヲ通シ來リシモ該交通路ノ勾配急ニシテ日々重量物ノ運搬ニ多
大ノ勞力ヲ要スルノミナラズ屢々職工人夫等ニ負傷者ヲ生シ危險少ナ
カラズ又當所ト荒川トノ間ニハ溝渠ノ設ケアルモ到底多量ノ貨物ヲ運
搬スルニ足ラズ因テ南千住町大字千住南字大門ノ内民有地千三百六坪
八合四勺及字菅谷ノ内千二百五十一坪ヲ買收シ當所敷地ニ編入セシヲ
以テ道路ノ現況ヲ左記ノ通り變更致度本件ニ關シテハ豫テ東京府知事
ニ照會セシニ同知事ニ於テモ異存無之但菅苗道ハ千住方面ヨリ三河島
村及尾久村ヲ經テ王子村ニ往來シ且一面東京市ニ聯絡スル重要道路ナ
ルカ故ニ之レヲ廢止シテ貴所ノ構外ニ沿ヒ里道ヲ以テ之レニ代フトキ

ハ迂回甚シク一般交通上少ナカラサル不便ヲ感スルヲ以テ東京市ニ通
スル道路ニ聯絡ヲ得セシムル爲メ通路新設相成度旨申來レリ然ルニ該
新道ハ當所ヨリ東京市下谷區方面へ交通スル捷路ニ當リ職工ノ往來貨
物ノ運搬ニ利便ヲ與へ候間初回ノ工事ニ限り一切ノ費用ヲ當所ニ於テ
負擔經營致度旨上申シテ許可ヲ得

一從來ノ掘割ヲ埋築シ荒川沿岸買收地内ニ現在スル里道ノ内幅一間長
三十三間此積三十三坪ノ道路ヲ撤去シテ當所敷地ニ合併シ新タニ幅
一間長五十五間六分此積五十五坪六合ノ新道ヲ築造スルコト

二新舊兩工場間ノ交通路ヲ撤去シ兩工場間ニ現在スル里道幅二間長二
百九十六間參分此積五百九十二坪六合並ニ幅一間長三十九間此積三
十九坪合計六百三十一坪六合ノ道路ヲ撤去シテ當所敷地ニ合併シ新
タニ幅二間長十九間四分此積三十八坪八合ノ新道ヲ築造スルコト

三新タニ幅二間長五十二間七分此積百五坪四合及現在道路幅一間余長
十八間五分ヲ擴張シテ幅二間ト爲スコト並ニ舊道ノ部分ヲ修理スル
コト

道路受領

以上ノ如ク道路ノ現況ヲ變更スルトキハ當所敷地ニ合併スヘキ道路ノ積ハ六百六十四坪六合トナリ新タニ築造シテ道路ニ編入スヘキ積ハ二百十三坪四合五勺トナル

十月六日 左記ノ通り官有道路ヲ東京府ヨリ受領ス

北豊島郡南千住町大字千住南字菅谷所在

三十三坪

同 字大門所在

五百四十一坪五合

同 字若宮所在

九拾坪壹合

計 六百六拾四坪六合

土木工事ノ設

同十日 當所敷地擴張ノ結果左記ノ通り工事ノ必要ヲ生シタルヲ以テ緩

急ニ應ジ漸次施行ノコトヲ上申シテ許可ヲ得

一 表門ノ移轉

一 門番所移轉

一 揭示場移轉

一 第四工場付屬厠移轉

一 新築表門并新築三號見張小屋移轉

賜勅語

一 故井上省三石碑移轉

一 交通路取壊

一 新工場土壘取壊

一 舊工場敷地内柵矢來取壊

一 舊工場敷地内板塀取壊

一 舊工場敷地内裏板矢來取壊

一 新工場敷地内柵矢來取壊

一 新工場敷地内板塀取壊

一 溝渠埋築

一 新舊工場間埋築

一 見張小屋新營

一 毛屑溜新營

同十一日 勅語ヲ拜受ス

同二十一日 寒冷ノ時季ニ向ヒ火氣ノ使用漸次増加セルヲ以テ火災豫防上一層ノ嚴戒ヲ加フヘキ旨内訓アリタリ

濾水工事

同二十三日 濾水場新設ノコトヲ上申シテ許可ヲ得其要ニ曰ク時局ノ爲メ當所晝夜業ヲ開始セシ以來之ニ要スル水量ハ莫大ナルヲ以テ忽チ井水ノ缺乏ヲ感スルニ至レリ仍テ當所現在ノ掘井ヲ尙突下クルトキハ多量ノ涌水ヲ得ルヤ否ニ付試ミニ深サ四百八十尺ヲ有スル掘井ニ付本年一月ヨリ三月ニ至ル間ニ於テ大ニ掘鑿ヲ加ヘ一千八十尺ノ深サニ突下タルモ僅ニ少量ノ涌水ヲ増加シタルニ過キサリシヲ以テ現在ノ掘井ヲ突下クルノ企圖ヲ放棄セリ又新ニ鑿井セントスルモ既ニ當所構内ニ拾三個ノ掘井ヲ有スル際ナレハ到底多量ノ涌水ヲ得ルノ見込ミナキノミナラズ新タニ鑿井スルコトハ附近ノ町村ニ於テモ苦情少ナカラズ故ニ爾來河水ヲ併用シテ井水ノ不足ヲ補充シ以テ今日ニ至ル迄作業ヲ繼續シ來リタルモ元來河水ハ夾雜物ヲ含有スルコト多クシテ染色洗絨等ノ工業ニ適セズ且ツ汽罐ノ保存上不利益少ナカラズ仍テ新ニ濾水工事ヲ新設シテ河水ヲ利用スルノ途ヲ開キ以テ旱天ノ際井水缺乏スルモ或ハ降雨ノ爲メ河水汚濁スルモ毫モ作業ノ進行ヲ支障セサル様取計ヒ度之ニ要スル經費金五萬千百拾圓九錢參厘ヲ臨時軍事費ヨリ支出ノコトヲ

近火

上申シテ許可ヲ得

十一月一日 本日午前一時四十分頃當所ノ西裏ニ隣セル東京板紙株式會社ノ工場ニ於テ火ヲ失シ一時類焼ノ惧アリシモ蒸汽ポンプヲ始メ數臺ノ唧筒ヲ配置シテ防禦ニ努メタルヲ以テ當所ニハ何等ノ損害ナク午前四時半頃鎮火セリ

- 同三日 非常準備規定ヲ定ム
- 同九日 汽罐掃除ノ爲メ十二日ノ夜業ヨリ向一週間工場休業
- 同十一日 二十日ノ晝間休業
- 同二十八日 許可ヲ得テ新築倉庫付屬雨覆ヲ新設ス
- 同二十六日 臨時軍事費ヲ以テ工事施行中ノ貨物置場外附屬工事ハ金五千參百七拾圓ヲ以テ悉皆竣功セリ(九月十日記事參照)
- 十二月十日 左記ノ通り道路敷トシテ東京府へ引渡セリ
- 北豊島郡南千住町大字千住南字菅谷ノ内 五十五坪六合
- 同 宇若宮ノ内 參拾八坪八合
- 同 字諏訪面ノ内 百拾九坪五勺

貨物置場等竣功

道路敷引渡

同十九日 許可ヲ得テ新築染物場付屬雨覆ヲ新設ス
 同二十一日 製絨材料豫備品トシテ臨時軍事費ヲ以テ支那羊毛左記ノ通
 リ購入ノ上陸軍被服廠へ保管轉管スヘキ旨達セラル
 支那羊毛 四拾九萬封度
 此代金拾四萬七千九百貳拾參圓四拾八錢七厘
 同二十七日 定詰夫心得第十八條ヲ改正ス
 同二十九日 三十一日ノ夜業及三十八年一月一日ノ晝業ヲ休ム
 明治三十八年一月十二日 本月十六日工場休業
 同十三日 第一工場付屬汽罐ハ老朽引換ヲ要スル爲メ假汽罐室一棟新營
 及ヒ敷地擴張ノ結果生シタル左記ノ工事ヲ緩急ニ應シ漸次施行ノコト
 ヲ上申シテ許可ヲ得
 一 防火器置場新營工事
 一新築守警詰所假職工治療所一號見張所新築十號圓新築一號見張所移
 轉工事
 一 舊工場藍染場裏土壘模様替工事

一 號假物置河水唧筒場九號假物置取壊工事
 同二十一日 色染所付屬汽罐場及四號倉庫ハ反毛場新築ノ區域内ニ在リ
 且ツ從來使用セザリシ建物ニ付許可ヲ得テ取壊ス
 同二十九日 漉水場及假物置新營等ノ爲メ敷地ノ擴張ヲ要シ北豊島郡南
 千住町大字千住南字菅谷ノ内民有地千四百四拾四坪買収ニ要スル經費金
 貳萬四千八百八拾五圓物件移轉料金四千七百五拾壹圓貳拾五錢合計金
 貳萬九千六百參拾六圓貳拾五錢ヲ臨時軍事費ヨリ支出ノコトヲ上申シ
 テ許可ヲ得
 二月四日 豫備品トシテ臨時軍事費ヲ以テ左記ノ染料ヲ購入ノ上陸軍被
 服廠へ引渡スヘキ旨達セラル
 一 アリザリン青 壹萬參千基
 一 セルリン 千五百基
 此金額六萬六千貳百貳拾八圓
 同六日 織絨科女工準業給工規程第二條中第二號金八厘トアルヲ九厘ニ
 第六號拾碼トアルヲ九碼ニ改ム

濾水工事竣功

同日 織絨科女工準業給工規定第二條中左ノ通り追加ス
 第二號ノ次へ左ノ一號ヲ加フ
 一二號白綾織絨ハ織機壹臺ヲ使用シ織上高壹碼ニ付金壹錢ヲ支給ス
 但緯糸打込廿五ミリメートル中廿四本ヲ缺クヘカラズ
 第六號ノ次へ左ノ一號ヲ加フ
 一二號白綾織絨織絨ヨリ新ニ織リ始ムル迄ノ時間ニ對シ織上高八碼
 ヲ見込ミ之ヲ當日ノ織上高ニ加算ス
 同日 紀元節ニ際シ 天皇后兩陛下ノ思召ヲ以テ金拾萬圓酒肴料トシ
 テ陸海軍ヘ下賜セラル
 同日 臨時軍事費ヲ以テ工事施行中ノ濾水場新設工事ハ壹萬貳千七百
 圓ヲ以テ悉皆竣功ス
 同十一日、十二日 臨時休業ス
 同十二日 曩ニ臨時軍事費ヲ以テ購入シタル陸軍被服廠保管ノ羊毛及染
 料ヲ千住製絨所ニ保管轉管スヘキ旨達セララル
 同二十七日 曩ニ許可ヲ得テ字菅谷ノ内千四百四十四坪ヲ買收シ當所敷地

假物置建設ノ
件

建物ノ名稱ヲ
改ム
購入機械

ニ編入シタル結果同字所在ノ官有道路百五坪五合ヲ陸軍省用地ニ編入
 シ當所敷地ノ内百四十坪五合ヲ交換トシテ東京府ヘ引渡度旨上申シテ
 許可ヲ得
 三月十二日 工場休業
 同二十日 時局ノ必要ト羊毛期節ノ關係上濠洲羊毛ノ如キハ冬期中ニ多
 量ノ購買ヲ爲ス方安全且ツ利益ナリト思惟シ曩ニ豫算外國庫ノ負擔ト
 ナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル金額増加ノコトヲ申進セシカ之レヲ貯藏
 スル爲メニハ少ナカラサル倉庫ノ容積ヲ要スルヲ以テ差向丙號及丁號
 假物置貳棟建設致度因テ之ニ要スル經費金壹萬參千七百六拾參圓七拾
 五錢ヲ臨時軍事費ヨリ支出相成度旨上申シテ許可ヲ得
 同二十五日 新舊工場間ニ介在セル里道及民有地ヲ當所敷地ニ編入シタ
 ル爲メ從來ノ名稱ニテハ整理上不便ナルニ依リ建物ノ名稱ヲ改ム
 本年度中作業費ヲ以テ購入セシ重モナル機械器具ハ左ノ如シ
 汽 二 個 一、五七八、五四〇
 鐘 二 個 一、五七八、五四〇
 ボンプ(ディープレツキス) 一 臺 四九五、〇〇〇

紡毛機	二臺	一三、七三五〇六〇
繰返機	二臺	一、三九〇、〇〇〇
整紡機	一臺	三、〇四〇、七五〇
經剪機	二臺	二、三五一、〇〇〇
節炭器	一個	五、五一四、五二〇
絨繼機	四臺	五、八八、五六〇
數字縫出シ機械	一臺	一、五五、三三〇
蒸汽タービンダイナモ	一組	一、四七三、〇〇〇
蓄電池	一個	三、四七五、二三九
電動機	一個	八六六、八〇〇
染絨器	十四個	三、四四六、〇〇〇
鐵製水溜	一個	四五〇、〇〇〇
鐵板製釜	一個	一八五、〇〇〇
運搬車	二十個	五七〇、〇〇〇
バイロメーター	一個	三九七、五〇〇

臨時染直シノ件

水	量	計	二個	八二〇、〇〇〇
蒸汽	唧筒	一臺	一、五二五、〇〇〇	
計				六二、〇五七、二九九

本年十月ヨリ十一月ニ至ル期間ニ於テ陸軍被服廠ノ依頼ニ依リ、他製造ノ各種絨ヲ紺色ニ染直シタル數量代價ハ左ノ如シ

各種絨長延參拾八萬五千九百參拾參尺貳寸

此染直代金六千五百六拾圓八拾六錢四厘 壹尺金壹錢七厘

又同期間ニ於テ當所ヨリ泉工場ニ染色ヲ依頼セシハ左ノ如シ

三號絨八百五拾反

此染工料金參千貳百參拾圓 壹反金參圓八拾錢

廿號絨七拾反

此染工料金百拾九圓七拾錢 壹反金壹圓七拾壹錢

右被服廠依頼絨類染直シノ件ハ極メテ秘密ニ且迅速ニ加工シタルモノニテ之カタメ常所製絨類ノ染色ハ之ヲ他ニ依頼セザルヲ得ザルニ至リシナリ

明治三十八年度

土地交換

火災

四月四日 字菅谷所在官有道路百五坪五合ヲ東京府ヨリ受領シ七月十七日當所敷地ノ内百四十壹坪五合ヲ東京府ニ引渡ス(二月廿七日記事參照)

同八日 第六工場東側ノ空地ニ商人ト受渡未済ノ印度羊毛約六百俵ヲ積置キ苦蔭及ヒ古板ヲ以テ雨覆ヲ爲シ置キタルニ午後十時頃烟突ヨリ噴出シタル火粉前記ノ雨覆ニ燃燒シ偶々西北風強カリシヲ以テ第六工場ニ火災ヲ吹付ケ事態容易ナラサリシモ當所ノ消防隊及ヒ職工等消防ニ從事シ衛兵モ亦大ニ盡力スル所アリテ幸ニ大事ニ至ラス僅ニ第六工場入口ノ扉壹ヶ所及ヒ羊毛ノ外包ヲ焦燬シタルマテニテ鎮火セリ

同十二日 陸軍大臣ヨリ傳染病豫防ニ關シ訓示アリタリ

同廿二日 新築色染場ニ要スル蒸氣不足ノ爲メ許可ヲ得テ汽罐場及ヒ烟突ヲ新設ス

同廿五日 臨時軍事費ヲ以テ工事施行中ノ反毛工場倉庫及ヒ消毒場ハ貳萬八千參百圓ヲ以テ悉皆竣功セリ

同三十日 荒川堤ニ於テ祝捷大運動會ヲ開ク當所創立以來ノ盛事ナリ

汽罐場及烟突新設

反毛工場倉庫及ヒ消毒場竣功

祝捷大運動會

日露開戦以來我海陸軍ノ捷報至ルゴトニ國民狂喜シテ止マズ祝捷會ノ開催頻繁ヲ極ム獨リ千住製絨所ハ一日ノ休業ノ影響ハ兵卒二千人分ノ被服ノ材料ヲ減少スルノ結果トナルヲ虞リテ未ダ會テ此種ノ會ヲ企圖セザリシモ職工ヲシテ一層勉勵セシムルニハ此際大規模ノ祝捷會ヲ開クノ得策ナルヲ感シ本日此舉アリ

五月二日 陸軍次官ヨリ火災豫防ニ關スル通牒アリタリ

同三日 定詰夫ヲ増シテ三十五名トス

六月三日 雨陛下ヨリ御下賜ノ清酒ヲ陸軍省ヨリ受領ス

御下賜

同十日 曩ニ臨時軍事費ヲ仰キ工事中ノ丙號假物置ハ金六千五百七拾圓ニテ悉皆竣功シタルヲ以テ第十三倉庫ト改稱ス(三月二十日記事參照)

事務所新築ノ件

同十二日 舊工場現在ノ職工食堂ハ其位置一方ニ偏シ工場各部ヨリノ交通不便ヲ極メ且ツ狹隘ニシテ多數ノ職工ヲ容ル、ニ足ラサルノミナラス衛生上及ヒ取締上ノ設備ニ於テモ不完全ナルヲ以テ事務所ヲ模様替

シテ職工食堂ニ充テ事務所ハ此際新築致度旨上申シテ許可ヲ得

會計検査官出張

同十八日 會計検査院三輪一夫一行ハ本月十六日ヨリ當所ニ出張實地檢

河岸修築

查ノ處本日結了

同三十日 許可ヲ得テ荒川岸道路ヲ新設シ且ツ河岸ヲ修築ス

七月七日 ベスト病流行ニ付豫防心得ヲ定メ實施ス

同九日 陸達第三十四號ヲ以テ罨紙類ニハ一般陸軍ノ二字ヲ附記スヘキ旨達セララル

大臣局長臨檢

同廿三日 陸軍大臣寺内正毅經理局長外松孫太郎ヲ隨ヘ當所ニ臨檢セラ

同廿四日 赤痢病流行ニ付豫防心得ヲ定メ實施ス

同廿五日 許可ヲ得テ第八厠ヲ新設ス

同卅一日 製造部夜業勤務心得ヲ定メ實施ス

八月二日 三十七年達第五號職工皆勤者恩勞金ニ關スル規定ヲ改正ス

同五日 石鹼製造場雜工場及ヒ第十一物置ノ各建物ハ朽壞甚シク修理ノ

見込ナキヲ以テ緩急ヲ見計ヒ漸次取壊ノコトヲ上申シテ許可ヲ得

同六日 織絨科準業給工規定ヲ改正ス

同日 織絨科準業給工規定第二條各項中當分ノ内壹號絨緯打込ミ三十本

毛染機械増備ノ件

トアルヲ二十六本貳號舊絨同三十本トアルヲ二十六本三號絨同二十七本トアルヲ二十四本二十號絨同三十二本トアルヲ二十八本トスルモ妨ケナキコトトシテ實行ス

同七日 滿發第六八〇三號ヲ以テ戰時服制々定ノ結果下士以下用絨地製作上毛染機械増備ノ爲メ豫算金拾五萬圓以内ヲ以テ必要ナル器具機械至急調辦ノ上設備ヲ完成スヘキ旨達セララル

所長濠洲へ出發

同十日 曩ニ濠洲へ差遣ヲ命セラレタル當所長大竹多氣ハ本日出發事務官阪口新圃所長不在中代理ス

同十一日 第十一物置ヲ取壊ス

同十四日 守警服務心得中改正

同十五日 反毛原料貯藏ノ爲メ許可ヲ得テ第十四倉庫ヲ新設ス

同廿二日 當所作業ノ目的ハ軍用絨類ノ供給ヲ確實ニスルニ在テ利益收

入ヲ目的トセス從テ三十八年度豫算ニ於テ作業費器具機械修補ハ主ト

シテ從來ノ計畫ニ基キ作業ノ増加ニ依リ若干參酌ヲ加ヘタルニ止メ以

テ生産品ノ價格ヲ低廉ナラシメタルニ時局以來當所ノ作業力ハ平年ニ

機械購入ノ件

倉庫新設

發電場増築

民有地買收ノ件

倍蕪シ晝夜間斷ナク機械ヲ運轉セシ爲メ多數ノ機械中ニ磨損セシモノ多ク其保存年限ニ劇變ヲ生シ半年ノ状態ニ在リテハ尙數年ヲ維持スルヲ得ヘキモノモ劇使ノ爲メ一ケ年ニテ磨損スルニ至リ今ニ於テ之ヲ新陳交換スルニアラスンハ將來ノ作業力ニ一大影響ヲ及ホスノ恐アリ因テ作業會計ヲ以テ之ヲ支辨補修セントセハ勢ヒ生産品ノ價格ヲ引上ケサルヲ得ス然ルニ臨時軍事費支辨ニ關スル既往生産品ニ對シ其價格ノ引上ハ不可能ナルヲ以テ特ニ交換ニ要スル機械調辦費金拾四萬六千參百貳拾九圓臨時軍事費ヨリ支出ノコトヲ上申シテ許可ヲ得

同廿五日・蒸汽タービン及ヒ蓄電池据付ノ爲メ許可ヲ得テ第二發電場ヲ増築ス

同廿八日 下士以下用絨毛染ニ變更ノ爲メ其諸工程ヲ爲スニ必要ナル工場ノ新營ヲ要シ且ツ其工場ハ在來ノ染色工場ニ隣接設置ヲ要スル爲メ之レカ設置ニ支障トナルヘキ民有地百拾壹坪買收ノコトヲ上申シ許可ヲ得

同廿九日 杉村建築課長ヨリ土地ノ編入買收還付若クハ借入ニ關スル伺

東京市中暴動ノ影響

書ニ添付スヘキ書類ニ關シ通知アリタリ

九月二日 濠洲ニ出張中ナル當所長ニ對シ該地ヨリ直ニ獨英米三國ニ差遣ヲ命セラル

同四日 陸軍次官ヨリ滿發第七五九號ヲ以テ昨年六月陸軍省告示第九號ニ據リ特別賜金ヲ給スルハ動員部隊ニ屬シタル者及ヒ戰時増俸ヲ受ケタルモノ、遺族ニ限ル旨通知アリタリ

同六日 昨夜來暴民各所ノ警察署ヲ襲ヒ市中不穩ヲ極ム當所警備ノ爲メ赴援隊ノ衛兵來着

同七日 市中ノ騷擾未タ鎮靜ニ至ラス暴民當地ノ警察署ヲ燒キ掃フノ風評アリテ人心恟々タリ因テ所員半數ヲ當直セシメ專ラ火災ノ豫防ニ注意セシム

同九日 市中ノ騷擾漸ク鎮靜ニ歸シタルヲ以テ當直者ノ人員ヲ平常ニ復ス

同十四日 割絨ニ從事スル職工進業規定ヲ定メ實施ス

同三十日 割絨ニ從事スル職工進業規定中追加

十月十二日 金剛油ト稱スル燈油ハ試験ノ結果危險ナキモノト認メタル
 モ粗製ニ流ル、ノ恐レアルヲ以テ使用ノトキハ充分注意アリ度旨陸軍
 省副官事務取扱ヨリ通知アリタリ
 同十四日 從來機械据付工事ニ付テハ竣功明細書ノ提出ナカリシモ明治
 三十二年七月廿六日會計検査院達第四號中建築ノ様式ヲ準用調製シ明
 治三十八年四月分ヨリ證明スヘキコトヲ會計検査院ヨリ申越シタル旨
 陸軍省副官事務取扱ヨリ通知アリタリ

新築事務所成

同十五日 新築事務所竣功ス

平和克復

同十六日 平和克復

勅語捧讀式

同十七日 十月十六日陸軍々人ニ賜リタル勅語捧讀式ヲ行フ

休日復舊

同十八日 所員ノ臂章ヲ撤ス
 同日 來ル廿二日ノ日曜日事務所及ヒ工場ヲ休業シ爾後隔週ノ日曜日毎
 ニ休業ト定ム

工場増設ノ件

同二十日 戰時中休日ハ事務員貳名當直セシメ來リシモ自今壹名ニ減ス
 同廿五日 下士以下用絨地毛染設備ノ爲メ第八工場新設第二染工場増築

直營工事規程

模様替其他付屬工事ヲ臨時軍事費ヲ以テ施行ノコトヲ上申シテ許可ヲ得
 同三十日 機械器具据付規程ヲ定メ實施ス

同日 直營工事規程ヲ定メ實施ス

同卅一日 曩ニ赴援隊トシテ派遣セラレタル衛兵ハ本日退去セリ(九月六
 日記事參照)

酒肴料御下賜

十一月三日 天長節ニ際シ 兩陛下ノ恩召ヲ以テ軍人軍屬一同へ酒肴料
 御下賜アラセラル

同十五日 内閣告示第貳號ヲ以テ本月十七日諸官員へ休暇ヲ賜フ旨被
 仰出タルヲ以テ當日事務所及ヒ工場休業ス

同三十日 許可ヲ得テ第壹工場付屬節炭機雨覆ヲ新築ス
 同日 曩ニ臨時軍事費ヲ仰キ工事中ノ丁號假物置ハ金六千四百貳拾圓ニ

假置物竣功

テ悉皆竣功シタルヲ以テ第十五倉庫ト改稱ス(三月廿日記事參照)

十二月二日 今回ノ戰役ニ從事シタル陸軍々人軍屬ニ三週間以内ノ休暇
 ヲ賜與セラレタル旨滿發第九二五五號ヲ以テ達セラル

凱旋歡迎

同七日 滿州軍總司令部ノ凱旋ヲ歡迎センタメ所員一同職工(男)七百六十

七名ヲ率テ新橋ニ到リ大山元帥ニ祝辭ヲ呈シ參謀本部ニ到リ同シク祝辭ヲ呈シ陸軍省及ヒ陸軍大臣官邸ニ到リテ萬歳ヲ唱ヘ口比谷公園ニ到リ千住製絨所ノ萬歳ヲ三唱シテ解散セリ此日女工ハ製絨所表門前ニ整列シテ行列ヲ送りタリ

新築事務所へ
移轉

同十六日 新築事務所へ移轉ス

戦時増給廢止

同十八日 戦時給與規則第六條第三項及ヒ第十六條ニ依ル増給ハ本月三十一日限り停止ノ旨滿發第九八七九號ヲ以テ達セラレ

絨類検査場新
築

同廿六日 許可ヲ得テ絨類検査場ヲ新築ス

事務所勤務時
間復舊

同廿九日 守警禮式及ヒ點檢規則ヲ定メ施行ス

蓄電池成ル

同日 三十九年一月四日ヨリ事務所ノ勤務時間ヲ平時ニ復ス

同日 勤務時間ヲ變更スルモ工業ハ依然晝夜全力ヲ盡シ製造ニ従事スルヲ以テ執務時間ニ拘ハラズ精勤スヘキ旨内訓ス

明治三十九年一月四日 貴族院決議陸軍ニ對スル感謝狀ノ通知アリタリ

同八日 從來工場其他建物外ニ於ケル點燈ハ日本點燈株式會社ニ託セシガ蓄電装置出來ノ爲メ必要ナキニ至リタルヲ以テ廢止ス

陸軍紀念日

同十五日 陸達第三號ヲ以テ雇員傭人給料支給規則中改正守警小使ノ給額増加アリタリ

第一職工食堂

同廿五日 三十七八年戰役ニ於ケル陸軍紀念日ヲ三月十日ト定メ毎年同日ヲ以テ陸軍一般祝意ヲ表スヘキ旨送乙第八七號ヲ以テ達セラレ

三月十日 許可ヲ得テ舊事務所ヲ模様替修理ノ上第一職工食堂ト改稱ス

同十二日 當所ノ工場衛生ニ關シ實地調査方醫務局長ニ達セラレタル旨

醫務局員出張

陸軍次官ヨリ通知アリタリ

同十五日 陸軍省醫務局員陸軍一等軍醫田村俊次當所ニ來リ工場ヲ視察セリ

同十九日 職工退場手續ヲ定メ施行ス

衛生調査

同廿八日 陸軍一等藥劑官近藤平三郎外拾三名衛生調査ノ爲メ工場ヲ一覽ス

同三十日 衛生調査委員陸軍一等軍醫高樹正知陸軍三等軍醫蟻川亨外數名當所ニ出張本日ヨリ調査ニ着手セリ

増設工場竣功

同日 臨時軍事費ヲ以テ工事中ノ第八工場新設第二染工場増築模様替其

購入機械

七十六

他付屬工事ハ金貳萬四千參百五拾圓ニテ悉皆竣功ス(十月廿五日記事參照)
 反毛所設置ノ爲メ三十七三十八ノ兩年度ニ於テ臨時軍事費ヲ以テ調辨ノ機械及据付費ハ左ノ如シ

分	捷	制	傳	扇	給	蒸	割	汽	化	消
水	絨	絨	力	風	水	汽	毛		炭	毒
器	機	機	軸	器	唧	機	機	罐	爐	罐
	一	三	一	一	一	四	二	一	一	一
	臺	臺	個	個	臺	臺	個	個	個	個
	一五五〇〇〇	六三二三五〇	二九七八七九〇	一〇七二五〇	二五四四一〇	四九三二四六〇	一七四四〇四〇〇	一一六五三六四〇	三四二一三三〇	二四三〇〇〇〇

煉瓦及石材セメント
 計 四八六七〇三四〇
 濾水器場設置ノ爲メ三十八年ニ於テ臨時軍事費ヲ以テ調辨ノ機械及据付費ハ左ノ如シ

カ	鐵	銅	雜	調	煉瓦及石材セメント
ラ	管	管	品	帶	
シ	類	類		七種	
					四八六七〇三四〇
					二二三三六〇〇
					四一九〇六〇
					七八五〇〇
					一二八九〇〇
					四九六五五〇
					四六三〇七〇
					一四六七四〇〇〇
					五、四〇九、一四〇
					四、九四一、三六〇
					一、四六五、〇〇〇
					九、三三〇、七五四
					三九六三〇〇

七十七

「タ」ン之据付
 水道鐵管布設費
 計
 一〇、二三四〇〇
 六七〇、〇〇〇
 三七、九〇九、九五四

明治三十九年度

四月二日 汽罐掃除ノ爲メ九日ヨリ十五日マデ工場休業
 同三日 八日ノ日曜休日ヲ廢シ十六日ヨリ隔週日曜日ヲ以テ休日トス
 同三日 本月十五日事務所休業
 同三日 職工慰籍ノ目的ヲ以テ職工食堂ニ有益ナル繪畫ノ額面ヲ掲ク
 同五日 整紡科準業規定ヲ定メ施行ス
 同十四日 許可ヲ得テ新舊工場間ヲ聯絡スヘキ廊下ヲ新設シ第四廊下ト稱ス
 同十七日 整紡科準業規定中追加
 同二十日 許可ヲ得テ甲號假物置ヲ模様替修理ノ上第二職工食堂ト改稱ス
 同廿一日 昨年在職中病死セシ雇員松井亮吉ノ遺族ヨリ三十七年二月陸軍省告示第十九號ニ基キ特別賜金願書ヲ提出セリ因テ本人在職中ノ履歴書ヲ添へ本省へ進達シタルニ本年六月二十六日明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金七拾圓賜與セララル

第二職工食堂

衛生調査終了

衛兵撤退

採油場新設ノ件

同二十五日 本月二十九日ノ休日ヲ廢シ翌三十日事務所及ヒ工場休業ス
同二十五日 工場衛生調査ハ本日終了
同二十八日 戰役中當所警戒ノ爲メ派遣セラレタル衛兵ハ本日當所ヲ撤退セリ

同二十九日 從來縮絨工場ヨリ排出スル石鹼液ハ下水ニ廢棄シ來リシモ若シ該液ヨリ油分ヲ採取スルヲ得ハ其利益尠ナカラサルヲ以テ採油場新設ノコトヲ上申シテ許可ヲ得

五月二十八日 第一第二職工食堂ヲ本日ヨリ開始ス

六月十九日 職工臨時勤務規定ヲ施行ス

同廿一日 送乙第一二〇一號ヲ以テ火災ノ豫防ニ關シ達セラル

同廿一日 勅令第一五四號ヲ以テ當所官制中屬八人ヲ十二人ニ技手十二人ヲ十五人ニ改正

同二十七日 衛生調査委員高橋軍醫ヨリ肺結核ノ症狀アルモノニ對シ内牒アリタリ

同二十八日 澆水場タンク廻板敷取擴メノコトヲ上申シテ許可ヲ得

官制中改正

鍛工場ノ件

七月四日 整紡科準業規程中改正

同九日 現在ノ鍛工場ハ三ヶ所ニ分レ業務ノ統一不便少ナカラス又木工場ハ多年間使用ノ結果大破ニ及ヒタルヲ以テ新ニ鍛工場及ヒ木工場ヲ建設シタキ旨上申シテ許可ヲ得

同十六日 本日工場休業

同廿九日 工場ノ監督及衛生風紀防火等ノ取締ニ從事セシムル爲メ監視職制ヲ施行ス

同廿九日 連日ノ降雨ニテ荒川氾濫表門ヨリ天王社ニ至ル間ニ假橋ヲ架設シ職工ノ來往ニ便ス

同三十日 監視執務心得ヲ定ム

職工變死

同日 監視服制ヲ定ム

八月二十九日 採油場ノ排水井ニ有害瓦斯發生ノ爲メ職工五人死傷ス

九月四日 採油場ニ於テ變死セル職工四名ニ對シ慰勞金トシテ金百圓ツ

、給與ノコトヲ上申シテ許可ヲ得

技師濠洲へ差遣

十月三日 技師渡部謙吉濠洲へ差遣ヲ命セラル

特命檢閱使臨檢

同五日 陸軍中將中村覺外四名特命檢閱トシテ當所へ臨檢セラル
同十日 所長代理事務官坂口新圃ハ本日東京偕行社ニ出頭特命檢閱使男爵川村景明ヨリ左ノ訓示ヲ受領セリ

一般ノ狀態概シテ可ナリト雖モ内務ノ規定ハ尙改善ヲ要スルモノアリ又工場衛生ニ關スル設備ハ速ニ完備センコトヲ望ム

同十三日 特命檢閱使ヨリ一日ノ休暇ヲ賜與セラレタル以テ本日事務所及ヒ工場休業ス

技師濠洲へ出發

同十九日 濠洲へ差遣ヲ命セラレタル渡部技師ハ本日出發
十一月十六日 第十物置ハ朽壞甚シク修理ノ見込ミナキヲ以テ取壊シ其跡ニ煉瓦造倉庫一棟新築ノコトヲ上申シテ許可ヲ得

所長歸朝

同二十八日 昨年八月以來濠洲及歐洲ニ出張中ノ所長大竹多氣本日歸朝ス

休憩時間ノ件

同日 職工ニ休憩時間ヲ與フルハ官私工場一般ノ慣習ナルノミナラス工場衛生上必要ナルヲ以テ十二月一日ヨリ晝夜トモ午前ニ一回午後ニ一回休憩時間ヲ與フルコトトセリ

消防夫詰所

十二月十二日 許可ヲ得テ南職工食堂場ヲ模様替修理シテ消防夫詰所トス

同日 囑託顧問醫高田壽辭職セシヲ以テ加藤仁三郎ニ當所顧問醫ヲ囑託ス

同十七日 陸軍次官ヨリ工場衛生ニ關シ調査委員ヨリ提出シタル意見ハ適當ト認メタルニヨリ爲シ得ル限リ實施セラレタキ旨通牒アリタリ

同十八日 陸軍大臣ヨリ當所備付トシテ衛生材料ヲ交付セラル

同日 採油ノ作業ニ従事スル職工關根由太郎誤テ石鹼液タンク中ニ陥入

リ全身火傷ニ罹リタルヲ以テ直ニ送院手當ヲ加ヘシモ十二月三十日遂ニ死亡セリ

同二十日 第一師團軍醫部長ヨリ當分ノ内陸軍一等軍醫北島庚吉陸軍一等看護長小澤眞七ニ派遣ヲ命シタル旨通知アリタリ

同二十六日 左記ノ通り年末年始ニ於テ休業ス

事務所ハ十二月三十一日ヨリ一月六日マデ
工場ハ十二月三十日夜業ヨリ一月六日マデ

職工變死

軍醫派遣

事務官在官ノ
儘滿鐵ニ就職

八十四

事務官任命

同十八日 是ヨリ先キ阪口事務官ヨリ在官ノ儘南滿洲鐵道株式會社へ就職ノ願出アリタルニヨリ進達セシニ本日其認可アリタリ

明治四十年一月十一日 定詰夫ノ人員ヲ増加シテ四十名トス

同十八日 醫務室ニ應用ノ爲メ過日來第三物置ヲ修理中ナルモ其完成マテハ尙多少ノ日數ヲ要スルヲ以テ假リニ事務所内ノ一室ヲ治療室ニ充テ本日ヨリ治療ヲ開始ス

同三十一日 稅務監督局事務官岡林猛當所事務官ニ任セラル

同日 囑託顧問醫加藤仁三郎ノ囑託ヲ解ク

二月一日 事務官岡林猛ニ報告主任ヲ命ス

同九日 自今左ノ祝日ハ事務所及工場休業ス

- 一 新年宴會
- 一 紀元節
- 一 陸軍紀念日
- 一 天長節

同十三日 曩ニ當所ニ派遣セラレタル北原軍醫ハ輜重兵第一大隊附ニ補

資本増額

會計検査官出張

技師歸朝

三十七八年戰
役行賞

セラレタルヲ以テ陸軍三等軍醫笠原義兒代テ當所ニ派遣セララル

同十八日 明治三十七年達第五號ヲ以テ定メタル皆勤勉勵手當ヲ改正ス

三月十九日 法律第十六號ヲ以テ据置運轉資本ニ四拾萬圓ヲ増加アリタリ

同二十日 會計検査官補川添久重外三名本月十八日ヨリ當所ニ出張建築工事ニ係ル會計實地検査ヲ遂ゲ結了退所セリ

同二十五日 許可ヲ得テ新築工場付屬事務所ヲ移轉模様替ノ上ニ職工係ノ詰所トス

同二十八日 技師渡部謙吉濠洲ヨリ歸朝ス

同日 笠原軍醫ノ派遣ヲ止メ陸軍一等軍醫川井清ヲ當所ニ派遣セララル

此年明治三十九年四月一日ノ日附ヲ以テ明治三十七八年戰役ニ從事セル者ノ行賞發表セラレ所長以下雇員職工ニ至ルマデ夫々賞賜アリ其内本官ノ分左ノ如シ

千住製絨所長從五位勳五等工學博士 大 竹 多 氣
勳三等旭日中綬章及年金貳百六拾圓

八十五

千住製絨所事務官從六位 阪口新圃
勳四等旭日小綬章及金千圓

千住製絨所技師從六位 渡部謙吉
勳四等旭日小綬章及金七百圓

千住製絨所技師正七位勳八等 奧田早苗
勳六等單光旭日章及金參百五十圓

千住製絨所屬從七位勳七等 田中萬
勳六等單光旭日章及金參百圓

千住製絨所技師從七位勳七等 岩崎太七衛
勳六等單光旭日章及金百八十圓

千住製絨所技師正八位 石坂正術
勳七等青色桐葉章及金貳百五十圓

千住製絨所屬正八位勳七等 津田兵三郎
青色桐葉章及金貳百五十圓

千住製絨所屬 吉村銅藏

勳七等瑞寶章及金百五十圓

千住製絨所技師 安達若松

勳七等青色桐葉章及金百五十圓

千住製絨所技師 小林國信

勳七等瑞寶章及金百五十圓

千住製絨所屬 中村昇亮

勳七等瑞寶章及金百五十圓

千住製絨所屬 增田乾吉

勳七等青色桐葉章及金百五十圓

千住製絨所屬 矢野歸一

勳七等瑞寶章及金百貳拾圓

千住製絨所屬 天野右作

勳七等青色桐葉章及金百五十圓

千住製絨所技師 佐久間政數

勳七等瑞寶章及金百五十圓

購入機械

勳七等瑞寶章及金百五拾圓	千住製絨所技手	久松土之助
勳七等瑞寶章及金百貳拾圓	千住製絨所屬	柳澤信行
勳七等瑞寶章及金百五拾圓	千住製絨所技手	山田外茂吉
勳七等青色桐葉章及金貳百五拾圓	千住製絨所技手	寺崎賢吉
右者同時ニ從軍記章ヲ授與セラル		
本年度中作業費ヲ以テ購入シタル機械類ハ左ノ如シ		
卷揚機	一臺	七二五〇〇〇
砂洗機	一臺	九九八二〇〇
(割毛機)針卷機	一臺	四七四四七〇
厭搾機	一臺	二七〇〇〇〇
同	一臺	二七〇〇〇〇

九鋸機	一臺	五一六一三〇
帶鋸機	一臺	一一二六七三〇
平削機	一臺	一一一八四八〇
石鹼付着機	一臺	六三八七二〇
傳力軸		六四一五〇
銅管		一四〇六七七〇
鐵管		一五八〇七〇〇
計		九二八九三五〇
本年度中臨時軍事費ヲ以テ購入シタル機械類ハ左ノ如シ		
洗毛機	一臺	一〇二七七二四〇
乾毛機	一臺	七二二〇九四〇
搾機	一臺	一三八九六二〇
同	一臺	一〇一二七三〇
螺旋打毛機	一臺	一〇六四〇八〇
同	二臺	二二〇一〇〇〇

同	紡	同	同	同	同	同	織	蒸	撻	撮	撮	撮	割	割
毛	毛						機	氫	毛	苜	苜	苜	毛	毛
機	機						刷	刷	機	箱	箱	箱	機	機
械	械						毛	毛	械	械	械	械	械	械
一	一	一	七	八	五	八	十	一	一	二	一	一	二	二
臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺
七、八、三、八、三〇〇	八、四、八、九、五、六〇	九、一、九、三、三〇	五、九、四、九、九、三〇	六、九、三、五、五、二〇	四、五、一、九、八、一〇	六、一、二〇、一、六〇	八、九、八〇、二、二〇	六、一〇、八、一〇	四、八、二、四、五〇	四、九、六、二、三、八〇	一、七〇、九、四、二〇	一、七〇、九、四、二〇	二、〇、六、九、八、六〇	三、一、九、二、二、五〇

染	洗	洗	同	縮	縮	光	同	經	同	起	整	整	線	刷
毛	絨	絨		絨	絨	澤		剪		毛	經	紡	返	毛
機	機	機		機	機	機		機		機	糊	乾	機	機
械	械	械		械	械	械		械		械	經	經	械	械
八	二	三	一	二	三	一	四	二	二	一	一	三	三	二
臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺
二、五、四、七、四、七、六〇	一、八、八、二、五、二〇	二、七、五、五、五、三〇	一、六、八〇、八、三〇	四、九、七、五、二、六〇	四、九、二〇、六〇〇	二、四、六、三、四、二〇	四、六、八、三、九〇〇	二、九〇、五、五、八〇	四、二、四〇、八、三〇	一〇、八、九、三、二〇	五、一、五、七、五、五〇	一、一、二、八、六、九、九〇	一、四、八、三、七、七〇	一〇、七、六、〇、三〇

同	六臺	一九一八〇、九八〇
同	一臺	四、九七二、八四〇
同	一臺	四、一三三、二七〇
糊經乾經機械	一臺	三、〇六九、八四〇
鐵管	千九百壹尺壹寸	三二六、四五〇
計		一九五、一一五、三〇〇

羊毛ヲ以テ資
本増加額ニ充

明治四十年度

四月一日 据置運轉資本増加額ニ充ツル爲メ作業費資本外トシテ保管中ノ各種羊毛ノ内左記ノ通り材料素品ニ組入レヘキ旨陸軍大臣ヨリ達セラル(四十年三月十九日記事参照)

濠洲羊毛 參拾參萬四千九百七拾壹封度

此代價金參拾萬圓

印度羊毛 拾貳萬參千六拾貳封度

此代價金五萬圓

支那羊毛 拾七萬八千參百八拾封度

此代價金五萬圓

計金四拾萬圓

同十六日 屬柳澤信行ノ收入官吏ヲ免シ該任務ヲ屬早川雅五郎ニ命ス
同十八日 工場衛生防疫及器械的傷痍救護上ノ必要ニ依リ當所經費ノ範圍内ヲ以テ左記ノ物品購入ノコトヲ上申シテ許可ヲ得

動脈 子 五 個

硝子尿器	齒科器械	肛門鏡	器械滅菌器	耳鼻喉器械	耳鼻喉鏡	檢眼鏡	檢眼鏡	外科囊鏡	喉頭鏡	卷尺	皮下注射器	體重計	體溫計	眼科器械
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	—
個	個	個	個	具	個	個	個	個	具	個	個	個	個	具

傷病者取扱規程

技手歐洲へ差遣

尿身長計器	手術臺
—	—
個	個

同二十七日 曩ニ許可ヲ得テ工事施行中ノ煉瓦倉庫一棟ハ竣功シタルヲ以テ第十六倉庫ト名ク

同日 本日ヨリ五月五日マテ汽罐掃除ノ爲メ工場休業

同日 五月二日靖國神社臨時大祭ニ付事務所休業

五月三日 第三物置ノ修理成リタルヲ以テ醫務室ト改稱ス

同日 絨類普通販賣手續ヲ定ム

同十四日 傷病者取扱規程ヲ定ム

同二十八日 監視服制中袖章及腕章ヲ廢ス

六月十一日 第二染工場模様替修理ノコトヲ上申シテ許可ヲ得

同二十一日 當所技手石坂正衛ハ製絨業研究ノ爲メ歐洲へ差遣ヲ命セラ

同二十五日 百斯篤豫防規程ヲ定ム

同二十六日 衛生委員規程ヲ定ム
 七月五日 百斯篤豫防規程中改正
 同日 百斯篤第二期豫防法ヲ實施ス
 同十二日 來ル十五十六ノ兩日工場休業
 同十七日 百斯篤第二期豫防法ノ施行ヲ止ム
 同日 今回歐洲差遣ヲ命セラレタル石坂技手ニ對シ英國到着ノ日ヨリ本年度内ハ外國旅費規則ノ客舍料一日金四圓日當一日金壹圓ヲ支給シ明テ一ヶ月金百五拾圓支給ノコト又出發前支度料ハ外國旅費規則第一號表ノ範圍内ニ於テ金貳百圓支給ノコトヲ上申セシニ本年度ニ於ケル旅費及支度料ハ伺ノ通り明年度以降ニ付テハ更ニ可伺出旨指令アリタリ
 八月三日 工場休業
 同六日 戰役恩賜金受領者ニ對シ心得方ヲ諭達ス
 同十二日 第二鍛冶工場ヲ修理シテ第一試驗室ト改稱ス
 同十三日 第十七倉庫新築ノコト及ヒ第五第六第七第八第九ノ物置殘物

小屋ノ諸建物ハ朽壞甚シク使用ニ堪ヘサルノミナラス防火上危險ニ付賣却ノコトヲ上申シテ許可ヲ得
 同二十一日 許可ヲ得テ濾水場付屬ノ唧筒場ヲ増築ス
 同二十二日 織絨科準業給工規程中改正
 同二十五日 本日午后三時頃荒川増水ノ爲メ當所門前道路ノ低地ニ浸水シタルヲ以テ直ニ假橋ヲ架設シ所員職工等ノ往來ニ便シタルモ浸水區域ハ時々刻々ニ擴大シ午后九時頃ニハ門内ニ侵入シ假橋ハ浮流シ交通ノ便ヲ失スルニ至レリ之ニ先チ午後八時工業ヲ休業シ職工等ヲ退場セシメタルモ中ニハ出水ノ爲メ歸路ヲ扼セラレ自家ニ歸ルコト能ハサルモノ男女ノ職工六拾名アリ因テ一時南千住町日慶寺ニ收容シ置キ一面居殘職工人夫ヲ指揮シテ工場倉庫等ノ浸水防備ニ努メタリ
 同二十六日 出水ハ午前七時頃ヨリ漸次工場倉庫等ニ浸入シ午後八時頃ニハ工場全部及第一第二第五ノ倉庫ヲ除キ他ハ悉皆浸水スルニ至リ其水深高キハ二尺低キハ一二寸ニ及ヘリ昨日日慶寺ニ收容シ置キタル職工ハ汽車便ニテ夫々歸宅セシメシガ内二名ノ女工ハ歸宅セシメ難キヲ

以テ當所ノ一室ニ收容スルコト、セリ此出水ニ關シ所員ノ過半數職工人夫ノ十中ノ八九ハ浸水地域ニ住居スル爲メ水害ヲ被リタルト當所ニ至ル通路殆ント擁塞ノ狀況ニ在ルトニヨリ少數ノ人員徹背應急ノ處置ニ從事セリ

同二十七日 今朝八時頃約七寸ノ減水ヲ示シ午後七時頃更ニ一尺餘減水セリ此日工場全部退水セシモ午後ヨリ大雨降り續キ夜ニ入りテハ風ヲモ交ヘタルヲ以テ再度ノ増水計リ難キニヨリ怠ラス警戒ヲ爲セリ

同二十八日 昨夜來風雨アリタルニ拘ハラヌ漸次減水シ昨日ノ午後七時頃ニ比スレハ更ニ亦一尺餘減退セシモ構内未タ全部退水ニ至ラス殊ニ門前ハ水尙ホ深ク水勢甚タ急ナルヲ以テ假橋ヲ架スル能ハス小舟五隻ヲ使用シテ交通ノ便ニ供セリ工場倉庫等ハ昨日來追々出所セル職工人夫ヲ指揮シテ善後ノ處置ヲ執レリ

同二十九日 漸次減水門内尙浸水面アルモ門前ノ水深脛ヲ沒スル程トナレリ因テ今曉來假橋ノ架設ニ從事シ交通ノ便ヲ開ク又天王社ヨリ三ノ輪橋ニ至ル通路ハ昨日マテ尙ホ小流溜水ヲ存セシモ今朝ニ至リ干土ト

ナリ通行支障ナキニ至レリ

同三十一日 當所門前ノ道路モ退水シテ交通全ク舊ニ復ス

九月二日 昨一日工場全部原狀ニ復シタルヲ以テ本日ヨリ晝夜工業ヲ開始ス

同二十三日 浸水シタル羊毛ノ處置急速ヲ要スルヲ以テ第一上屋ヲ増築シテ手入ノ場所ニ充テタキ旨上申シテ許可ヲ得

同日 假發電所新築ノコトヲ上申シテ許可ヲ得

同日 陸達第五十七號ヲ以テ勤勉手當支給規則ヲ達セラル

同二十五日 練習生ニ關スル規定ヲ定ム

十月二日 第八工場ニ据付タル洗毛機械試運轉ノ際蒸氣科技男西明榮松誤テ調草ニ觸レ重傷ヲ負ヒタルニヨリ直ニ手當ヲ加ヘシモ遂ニ死亡セリ

同四日 當所ハ戰後引續キ晝夜執業セリ然ルニ敷地狹隘ノ爲メ倉庫建設石炭置場等ノ余地ナク作業上支障少ナカラサルヲ以テ附近ノ民有地四千貳百坪六合五勺買收ノコト及ヒ買收地所在ノ官有道路五百八十二坪

勤勉手當支給規則

職日變死

民有地買收

當所處務規程ヲ定ム

勤務時間

勤勉手當支給規程

軍醫就職

物品會計官吏交送

五合三勺ヲ當所敷地ニ編入シ五百五十一坪六合ノ新道ヲ築造シ東京府
へ引渡シ交換ノコトヲ上申シテ許可ヲ得

同九日 陸普第二二號ヲ以テ陸軍平時傭人定員表ヲ達セラル

同二十日 當所處務規程ヲ定ム

十一月一日 本月四日ヨリ九日マテ瀛纈掃除ノ爲メ工場休業

同十一日 工場監査規定ヲ定ム

同日 當所職員ハ從來作業上ノ都合ニ因リ別ニ執務時間ヲ定メアリシモ
今回廢止ス

同日 屬早川雅五郎ノ收入官吏ヲ免シ該任務ヲ屬矢野歸一ニ命ス

同日 工場勤務ノ技手雇員及ヒ傭人ノ勤務時間ハ職工ト同一トス

同日 工場勤務ノモノヲ除キ所員ハ事務上差支ナキ限り當所休業以外ノ

日曜日大祭祝日及ヒ土曜日ノ午後半數宛交代休業スルコトヲ許ス

同日 監査係服制中改正

同日 勤勉手當支給規程ヲ定ム

同十二日 勤勉手當ノ支給ヲ受クルモノ、出勤簿取扱方ヲ定ム

同十三日 川井軍醫陸軍砲兵工科學校附ニ補セラレ陸軍一等軍醫村尾敬
當所附ニ補セラル

同十五日 屬田中萬ノ物品會計官吏ヲ免シ該任務ヲ屬吉村銅藏ニ命ス

同三十日 職工ノ出勤時間ニ三十分ノ遲參ヲ許スコト、セリ但シ當日ノ
日給一時間ヲ減シ且ツ賞與調ノ際其日ヲ欠勤トシテ算出セシム

同日 職工補欠上必要ニヨリ當分ノ間職工ヲ紹介シタル者ニ手當金ヲ支
給スルコトトス

同日 當分ノ間職工ノ給料ヲ左記ノ通り定ム

一 新ニ採用スル職工ハ男工日給參拾貳錢女工日給貳拾貳錢トス

一 男工中現在日給貳拾八錢及ヒ參拾錢ノモノハ參拾貳錢ニ參拾貳錢
ノモノハ參拾四錢ニ昇給セシム

一 女工中現在日給貳拾錢ノモノハ貳拾貳錢ニ貳拾貳錢ノモノハ貳拾
四錢ニ昇給セシム

十二月十二日 工場監督ノ爲メ晝夜詰切ノ所員ニ洗面所ノ必要アルヲ以
テ許可ヲ得テ之ヲ事務所内ニ設ク

同二十七日 左記ノ通り年末年始ニ於テ休業ス
 事務所 十二月三十日ヨリ一月五日迄
 工場 十二月二十九日夜業ヨリ一月五日迄
 明治四十一年一月十六日 工場休業

處務規程中改正

勤勉手当支給規程中改正

種痘勵行

購入機械

同十五日 當所處務程中改正
 同二十七日 勤勉手当支給規程中改正
 同二十八日 天然痘流行ノ爲メ所員以下職工ニ對シ種痘ヲ勵行ス
 同日 木綿糸屑、麻糸屑、草實、草葉等ノ如キ植物質ノ物、羊毛ニ混在スル片ハ製絨上ノ品位ヲ劣悪ナラシムルヲ以テ見付次第取除ヘキ旨諭達セリ
 二月五日 昨年出水ノ爲メ破損シタル荒川岸柵ヲ修理ス
 同二十九日 傷病者應急救護ノ爲メ醫務部勤務ノ臨時傭人ヲシテ一般休日ニモ宿直ヲ爲サシム
 本年度中作業費ヲ以テ購入シタル機械類ハ左ノ如シ
 洗毛機械 一臺 五〇〇、〇〇〇

織機	十臺	七、八一三、九〇〇
蒸絨機	一臺	一、六四一、〇三〇
蒸氣タービンダイナモ	一組	二、五〇八、七〇〇
電動機	二臺	一、〇八二、〇〇〇
同	二臺	一、五三六、〇〇〇
同	一臺	二、三二五、〇〇〇
同	一臺	一、五二五、〇〇〇
同	一臺	一、九七四、〇〇〇
瓦斯燒機	一臺	三、四九九、〇〇〇
壓絨機	一臺	八、七四二、九五〇
傳力軸		二、五八一、七一〇
銅管		六七一、八二〇
鐵管		一、七八七、八三〇
計		五九、七六七、二四〇

本年度中臨時軍事費ヲ以テ購入シタル機械類ハ左ノ如シ

蒸 氣 機 械 一 臺 一 五、八〇〇、〇〇〇
 同 一 臺 一 九、九〇三、〇〇〇
 起 重 機 八 臺 四、七〇〇、〇〇〇
 傳 力 軸 真 五、四六一、〇二〇
 計 四、五八六、四〇二〇

(二) 軍事費支辨金額

明治三十七八年戰役ノ爲メ臨時軍事費ヲ以テ支辨シタル金額左表ノ如シ

臨時軍事費

許可年月	事 項	許 可 額	使 用 實 費 額	不 要 額
三十七年六月	臨時所要羊毛購買	九二〇,〇〇〇	九二〇,〇〇〇	—
同 六 月	民有地買收	四二九,四五六	四二九,四五六	—
同 八 月	反毛所設置	七九,三四〇〇	七六,九七〇	二二,三七〇
同 十 月	民有地買收及敷地交換工事	一〇五,〇〇〇	一〇一,四八七	三,五一三
同 十 月	濾水工場設置	五二,一〇〇	五〇,六九五	一,四〇五
同 九 月	買收地改修並貨物置場新營	八〇三,四七八	五三七,〇〇〇	二六六,四七八
同 十 二 月	臨時所要支那羊毛購入	一四七,九三七	一四七,九三七	—
三十八年二月	豫備染科購買	六三三,八〇〇	六三三,八〇〇	—
同 二 月	保管轉換羊毛運搬費	一二六,三五二	一二六,三五二	—
三十八年二月	民有地買收	二九六,六五〇	二九六,六五〇	—

同	三月	假物置新營	一三七,三二五〇	一三九,〇〇〇〇	七,六七五〇
同	月	羊毛保管料	五三,〇五二	五三,九六〇	九〇八
同	五月	同	二〇,九七〇	二〇,〇〇〇	九七〇
同	八月	下士以下用絨地毛染設備	一五〇,〇〇〇〇	一四一,三七二〇	八,六二八〇
同	八月	磨損ノタメ引換ヲ要スル機械購	一四六,三九〇〇〇	一四〇,〇五二〇〇	六,三三八〇〇
計			一,六五五,五四六二	一,六三八,九三二六五	一七六,〇一三九二

(三) 明治四十年度末固定資本現在額

一 土地 三四五,七五三七四〇

一 建造物 五六六,二〇九,四四六

一 機械 七八八,二四九,〇三一

一 器具 三三三,三一〇,七四九

計 一,七三三,五二二,九六九

(四) 据置運轉資本
運轉資本増加ノ年度及金額ハ左表ノ如シ

年 度	金 額	累 計	計
明治十一年度	一一〇,〇〇〇〇	一一〇,〇〇〇〇	一一〇,〇〇〇〇
同 十二年度	四〇,〇〇〇〇	一五〇,〇〇〇〇	一五〇,〇〇〇〇
同 十四年度	三〇,〇〇〇〇	一八〇,〇〇〇〇	一八〇,〇〇〇〇
同 十八年度	四四,三八二八七〇	二二四,三八二八七〇	二二四,三八二八七〇
同 十九年度	七五,六一七二三〇	三〇〇,〇〇〇〇〇	三〇〇,〇〇〇〇〇
同 二十二年度	八〇,〇〇〇〇〇	三八〇,〇〇〇〇〇	三八〇,〇〇〇〇〇
同 二十三年度	六,四九六七九一	三八六,四九六七九一	三八六,四九六七九一
同 三十一年度	一〇六,七五一六〇四	四九三,二四八三九五	四九三,二四八三九五
同 三十二年度	一〇六,七五〇六〇五	五九九,九九九〇〇〇	五九九,九九九〇〇〇
同 三十三年度	一〇〇〇	六〇〇,〇〇〇〇〇	六〇〇,〇〇〇〇〇
同 四十年度	四〇〇,〇〇〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇〇〇

(五) 作業費收支科目
(六) 作業費受拂損益

- (七) 製品價額
- (八) 製造額販賣額及販賣代價
- (九) 職工延人員及給料
- (十) 購入羊毛染料及石炭

右明治二十九年度ヨリ四十年度ニ至ル統計別表ノ如シ

受

年度	受		入							合計	入	
	歳入ノ收入済額	收入未済額	据置運轉資本	繰上現金ノ持	總生産品ノ價格	總材料ノ價格	總機運轉用品ノ價格	作業場用品ノ價格	歳出ノ支出済額		支出	
明治二十九年	九四三,〇五六〇	三六二,八四六	五二,二六六	一,〇一五,四九七	一,〇〇二,四七五	五七,四九四	七九,二四三	三,二九八	九四八,八五九	一		
同三十年	一,三二四,五二七	四六〇,二九八	一三,四二〇	一,三三三,四一七	一,四一五,四三三	八八,八二〇	八〇,二七〇	四,三六六	一,三九八,五〇三	三		
同三十一年	一,一九七,四二九	七三三,三三〇	一五,〇五七	一,一七二,九〇九	一,四一五,四三三	一〇七,三六八	八三,五六三	四,〇五九	一,三八一,七六四	二		
同三十二年	一,三〇一,四八五	六六九,四四四	一〇,〇七〇	一,三一一,三六五	一,五四八,八三九	八八,九九五	八九,六六六	四,二七五	一,二八九,〇三三	九		
同三十三年	一,四四一,〇五五	二二,六六九	二二,六八九	一,四六三,七五八	一,六三二,九三六	八八,七二五	一〇,八九六	四,六八三	一,四四三,三六六	八		
同三十四年	一,九七,四七三	一三,〇〇八	二九,〇五七	一,九九,八二二	一,〇八二,〇〇六	一九,三七〇	二二,七一〇	六,三三七	一九七,〇五五	一〇		
同三十五年	一,五七七,二七九	一九〇,六一三	二二,四九六	一,五五三,二四七	一,五三三,二八六	一〇〇,四五〇	一四,九七六	四,七八七	一,三八六,四四七	八		
同三十六年	一,五七九,八七九	一五四,七八九	一七,〇七三	一,七二五,八三二	一,六四六,三九六	一九,九六四	一四,九七〇	五,五〇一	一,六五八,二八〇	三		
同三十七年	四,五四八,〇三六	二〇,五六二	八八,〇六三	四,四四〇,四四〇	四,四三三,九三三	二〇,七二六	一六,一五〇	二,二五二	四,四五〇,九一六	一〇		
同三十八年	三,五七三,六三三	七四七,九八九	一三〇,四三三	三,八三三,八五七	三,一五二,四三〇	三三,二八七	三三,〇七六	一〇,八七六	三,五九五,〇二七	五		
同三十九年	三,八九六,〇五七	二七三,八九五	七,〇八八	三,九六三,九六三	三,五五〇,九七二	三七,一八九	三三,四三六	一三,〇三六	三,八八〇,〇〇九	一九		
同四十年	三,三六三,五五八	一〇二,七七八	二二,三五〇	三,三九三,九三三	三,二九九,三三六	二七,〇九六	一四,七六五	一〇,二五四	三,四一五,七三三	二		

合計	歳出ノ支出済額	支出未済額	措置運	資本額	出					合計	益金	損失
					貨物代價収入済 物品ノ價格	貨物代價収入未 済物品ノ價格	消費シタル材料 及素品ノ價格	消費シタル機械 運轉用品ノ價格	損失ニ歸シタル 物品ノ價格			
三九,五九六七〇	九四八,八五九四三	一七,七七七四	三八六,六六七九	九三五,五九五七三	三六,二五〇二二	七〇五,二五九五三	四三,六七五〇四	五〇,一八六四五	三,〇七九七〇	二,六二五七三		
三三六,九七九四一	三九八,五二〇三五	三九,九四二九六	四九三,四八三九五	三,五三三六二	四〇,二二五〇〇	四三,七四四〇	六四,四八〇五八	二,八七八三	四三,七五八二六	九,一六三三四		
〇五五,〇九八八三	三,二八一七,四四三	二,四四三三〇	五九九,九九〇〇〇	一,四八,二九五七六	七三七,一三六〇	八八,〇九六三三	八二,〇九七〇八	二,四四六九二	四〇,五〇八七二	四,二二三八二		
一七,二六五,一九五二	二,九〇,〇〇三,七五七	九七,八七二三八	六〇〇,〇〇〇〇〇	二,八七,八四三,五〇八	六六,九四四,〇〇	四八,八三三三五	六七,九五五,二九四	二,二七三,四二	四,二七二,三三五	三,二六三,九四		
六二,三五三,三三六	四,三三,六一三,四四五	八五,二三六六八	六〇〇,〇〇〇〇〇	一,四三,四八三,二四二	二,六四七,九四二	一,〇二,五九四,八七五	八〇,三六二,五八七	八,一八四八	四,六八〇,四四八	一,八六六,九〇八		
三三,七〇九,三三〇	一,九七〇,三五九,八七	一〇,二二三五	六〇〇,〇〇〇〇〇	一,九三,四二五,三六六	三,一〇七,〇八〇	一,五九二,〇四八,五五	九〇,〇三三六〇	二七〇,二四八	六,二二〇,五九八	三,六四九,五二九		
五八,七三九,九〇〇	一,三八六,四〇四,五七	八,四三三,五三三	六〇〇,〇〇〇〇〇	一,五〇,九五〇,五五三	一,九〇,二六三,四二	一,六五三,五七一,六五	七六,一七四,四四	六,五四三,八三	四,七三六,〇七	三,二七三,三三		
〇一,五五五,一九一	一,六五八,二八〇,三六一	三九,四八九四六	六〇〇,〇〇〇〇〇	一,五四,二六〇,二九〇	一,五七六,八九〇	一,四一八,四九二,二六	八,三三三,四四	二〇,七二八〇	五,四九八,六三四	二,八九三,一〇〇		
五,一九七,〇八七	四,五〇二,九一五,三九六	一〇,〇四三,六八	六〇〇,〇〇〇〇〇	一,三七五,三六八,〇七	一,八五三,三三九	一,四一七,五二八	一四,一三六,五九	九二,七〇二,七五	三,四八,七五	三,六九九,九五		
六,七三,七〇一	五,三九五,〇八二,二五七	五,一三,八三〇	六〇〇,〇〇〇〇〇	一,五〇,四八三,八三	七四七,三九九六	二,七六二,六三三	一六七,二五一九九	一,九三,五二四,七	一〇,八五八,二一九	九,五八二七		
六〇,一〇六,四三三	一,〇一五,四四〇	一,九四三,三三〇	六〇〇,〇〇〇〇〇	一,四七,四八七,四	二七二,九九五,四二	一,九四七,五八四,五	三三,八七三,六七	五,三九二,二二	二,六五八,六三三	七,三三,八〇三		
四二,九六二,二二	一,四七三,三三〇	一,二五五,一七〇	一〇〇,〇〇〇〇〇	一,八五三,三三〇	一〇一,〇六三,三三〇	一,三三三,九八二	二二,三三三,四四	四八,〇〇五,〇二	一〇,二五〇,九八五	三,二九七,七〇九		

表目科入收費業

目	年度	
	明治二十年	同三十年度
製品賣拂代	三六八四六九	三〇二六三三
注物品製造料	—	一八二四五
物品拂下代	四四四四七	二四九三二
地所貸下料	〇二七四	〇二七四
建物貸下料	三四二六四	三四二六四
返納金	六二〇二	三二六
辦償金	一六九五	一一〇三
合計	九四三,〇六五〇九	一,〇二四,四四二

表目科出支費業作

科目	年度	
	明治二十年	同三十年度
俸給及諸給	六六八三三	六六七八六
應費	四四四七四	四九〇四三
修繕費	—	一六二七
死傷手当	—	二六三〇
賠償及訴訟費	—	—
諸收入過誤納下	—	—
旅費	一六四〇	一三三七〇
雜給及雜費	七,〇七五	八,二三八九
諸手当	—	—
作場費	—	—
材料素品購買費	九四八,八五九四三	一,〇二四,四四二
合計	一,〇二四,四四二	一,〇二四,四四二

職工延		度年	男	工	女
全	四十年	度	三三,一五〇	四	
全	三十九年	度	三二,一九八	〇	
全	三十八年	度	三二,七八九	九	
全	三十七年	度	二九,六六九	五	
全	三十六年	度	二六,四九三	三	
全	三十五年	度	二九,五五七	四	
全	三十四年	度	一四,八三七	三	
全	三十三年	度	二七,八一七	三	
全	三十二年	度	一三,六三〇	九	
全	三十一年	度	一一,七〇八	八	
全	三十年	度	一〇,四八二	二	
明	治二十九年	度	一〇,八〇八	八	

購入羊毛、染料及石炭

年 度	各 種 羊 毛	染 料	石 炭	石 炭 數 量
明治二十九年 度	五四三,七五三,七七九	一六二,九三三,四三二	四五,四三三,九八	一三,四八八,一六〇
全 三 十 年 度	九三三,六三三,九九六	一六八,〇三三,四四六	七三,六三三,七五〇	一五,三〇〇,〇〇〇
全 三 十 一 年 度	八四五,九七九,三五七	一八〇,八三三,四二一	八〇,二五〇,二〇〇	一六,四六〇,〇〇〇
全 三 十 二 年 度	八四二,三七六,九七七	一六八,八二九,九九五	六〇,五〇一,〇〇〇	一八,〇〇〇,〇〇〇
全 三 十 三 年 度	八八八,九七六,六三四	一八七,八〇三,二二五	六四,七四三,〇〇〇	一七,〇〇〇,〇〇〇
全 三 十 四 年 度	一,三四一,四七五,四〇〇	二〇一,四九七,一四八	九八,〇九六,〇七〇	二二,六九五,七〇〇
全 三 十 五 年 度	八七三,四六八,七八六	五九六,三八二,七八六	七六,九四八,五四〇	一九,六七二,〇〇〇
全 三 十 六 年 度	一,一〇五,五五三,〇六八	一七六,三三六,三三五	九三,四六三,三八〇	二七,六三三,三三三
全 三 十 七 年 度	三,〇四〇,〇四六,八三三	六九三,六八四,八五〇	一六〇,八三九,七一四	四二,七〇六,五〇〇
全 三 十 八 年 度	二,五七九,九八三,五〇三	四八六,六三三,七三〇	二四五,五四〇,七二〇	四三,八九六,九六六
全 三 十 九 年 度	二,八二五,七五六,九四〇	五七〇,〇七一,六一〇	二二二,九三六,三三〇	五二,三六九,〇八三
全 四 十 年 度	二,二九六,三七二,一七〇	七二二,九三二,一一〇	二二六,九八八,二八〇	五三,五七三,九〇〇

表目科入收費業

目/年度	製品賣拂代	注用品製造料	物品拂下代	地所貸下料	建物貸下料	返納金	辨償金	合計
明治二十年	九八四六六二九		四四八四六七	〇一三〇	三四二六四	六二〇三	一六九五四	九四三〇五六〇九
同三十年度	三〇二六六三四五	一八一四五	二四九五三九	〇一三三	三四一六四	三三三八	一一〇三三	三二四四五二〇七
同卅一年度	二九四二七三〇八	八二四八二	三〇〇七五五	〇一七四	四三五四	一三五七	四八八九	一四九七四二四四
同卅二年度	二九五二二四	五〇	六〇九					一〇一五二六

表目科出支費業作

目/年度	俸給及諸給	廳費	修繕費	死傷手當	賠償及訴訟費	諸收入過誤納下	旅費	雜給及雜費	諸手當	作場	材料素品購買費	合計
明治二十年	六六八三三	四四四七四					一五六四〇	七二四七五		二四四	七〇〇	九四八八五九四三
同三十年度	六六八七八六	四七九〇四	一六二七	三五四二七〇			一三三四七〇	八三二三八五九		一九七六七三六七	一〇九六二九三	三九八五二〇三五
同卅一年度	六三九七六九	四三〇九六	二六三〇	三六八二七五			八三九八〇	八九九四三三五		二〇一〇三七四七	一〇八六三三〇	三三八二六四四三
同卅二年度	一〇九三	五三		二六八			五九九	八六五八		二七九〇	一〇一〇	二九八〇〇三

欠

MISSING

考 備	種 類	製 造 額					計	販 賣 額					計
		絨	小 絨	藥 囊 地	毛 布	絨		小 絨	藥 囊 地	毛 布			
同 三十九年度	同 三十九年度	四四,五二〇〇	—	—	—	三,四七九	四六,八八九〇	四五,一五〇	七,九六〇	—	—	三,四七九	四七,四七〇
同 三十八年度	同 三十八年度	四四,三三六〇	—	—	—	三,四八〇	四五,一六四五六〇	四三,九〇三	七,六七六	—	—	三,四八〇	四四,三三六〇
同 三十七年度	同 三十七年度	五〇,〇三三六〇	二八,四五九〇	—	—	一四,一五六	五二,一九三八八	五二,七五九三〇	二四,五〇四〇	—	—	一三,九六六	五三,三三三〇
同 三十六年度	同 三十六年度	二〇,四九四八〇	五,七三〇八〇	—	—	二七,一四六	二二,五五四二四〇	一九,二五三六〇	五,四二五〇〇	—	—	二七,一四六	二二,五五四二四〇
同 三十五年度	同 三十五年度	一五,八二四四〇	二九,〇九七〇	—	—	五,一三五	一九,七九六二四〇	一六,〇二九三〇	七,一〇〇〇〇	—	—	五,一三五	二〇,四九四八〇
同 三十四年度	同 三十四年度	一八,四一九五二	一四,〇五七〇	—	—	一〇,七九七	二五,九八二二六	一八,六五五四〇	二,三二九〇	—	—	一〇,七九七	二五,九八二二六
同 三十三年度	同 三十三年度	一三,九〇三九〇	二八,五二〇〇	—	—	六,五八二	一七,六七一九三〇	一三,二四〇五〇	九,九六〇	—	—	六,五八二	一七,六七一九三〇
同 三十二年度	同 三十二年度	一二,六四九五〇	五,三九六〇〇	—	—	六,四三二	一六,四八一五三〇	一二,三四三二〇	五,二二三〇	—	—	六,四三二	一六,四八一五三〇
同 三十一年度	同 三十一年度	一四,〇二七五〇	三,九一八〇〇	—	—	五,〇八五	一六,一七八六〇〇	一三,一六三三〇	三,七三〇〇	—	—	五,〇八五	一六,一七八六〇〇
同 三十年度	同 三十年度	一五,〇五二一〇	—	—	—	七,九六七	二〇,三六一四〇〇	一五,〇二六六六	二,七五七〇	—	—	七,九六七	二〇,三六一四〇〇
明治二十九年	明治二十九年	一七,九五四〇〇	七,五九九〇	—	—	一三,四六三	一八,九三五五九五	一八,四七五九二	五,八五六〇	—	—	一三,四六三	一八,九三五五九五
同 三十四年度	同 三十四年度	一八,四一九五二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 三十三年度	同 三十三年度	一三,九〇三九〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 三十二年度	同 三十二年度	一二,六四九五〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 三十一年度	同 三十一年度	一四,〇二七五〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 三十年度	同 三十年度	一五,〇五二一〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
明治二十九年	明治二十九年	一七,九五四〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

一 小絨藥囊地ハ二分ノ一毛布ハ六尺七寸ニテ換算セリ

(士) 敷地及工場畧圖

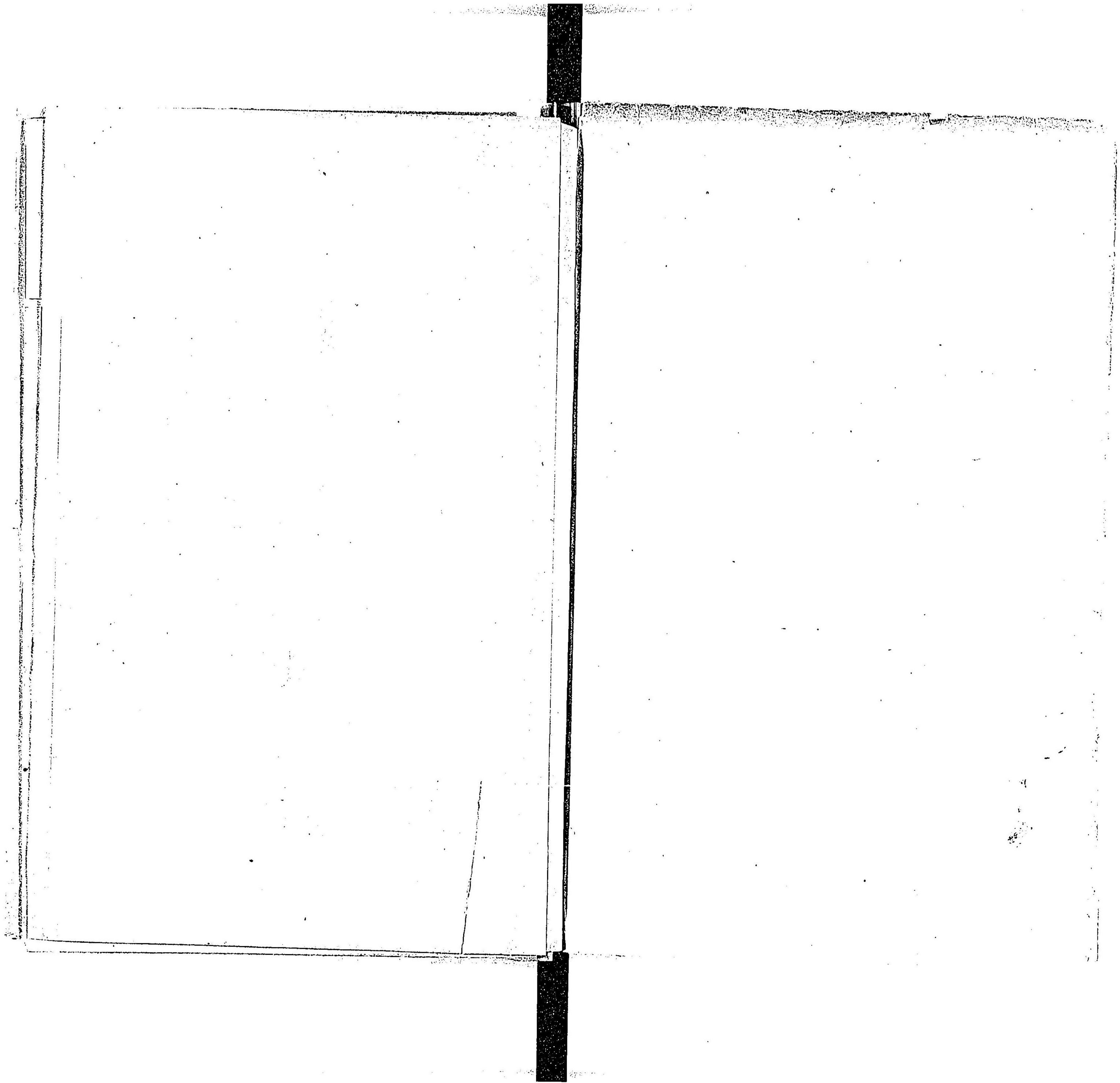
當所創立ノ際敷地ハ僅ニ八千三百五坪八合五勺ナリシモ漸次擴張シテ現
今ハ三萬二千三百五十八坪五合五勺トナレリ

第一圖 明治貳拾九年度末現在

第二圖 明治參拾六年度末現在

第三圖 明治四拾年度末現在

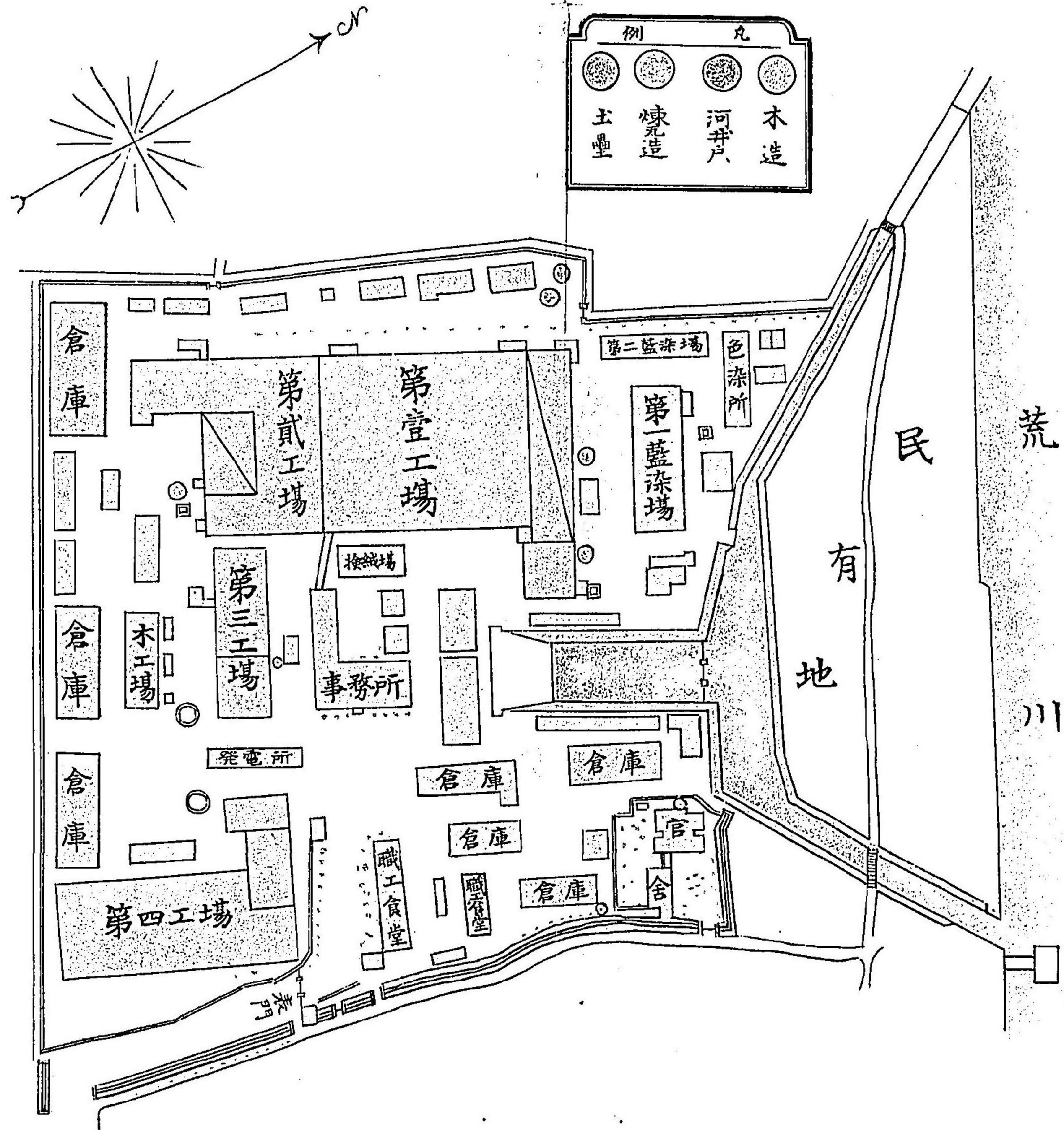
坪數壹萬參千五拾坪九合參勺
坪數貳萬貳千八百五拾七坪九合參勺
坪數參萬二千參百五拾八坪五合五勺



千住製絨所配置平面圖

縮尺壹千八百分之壹

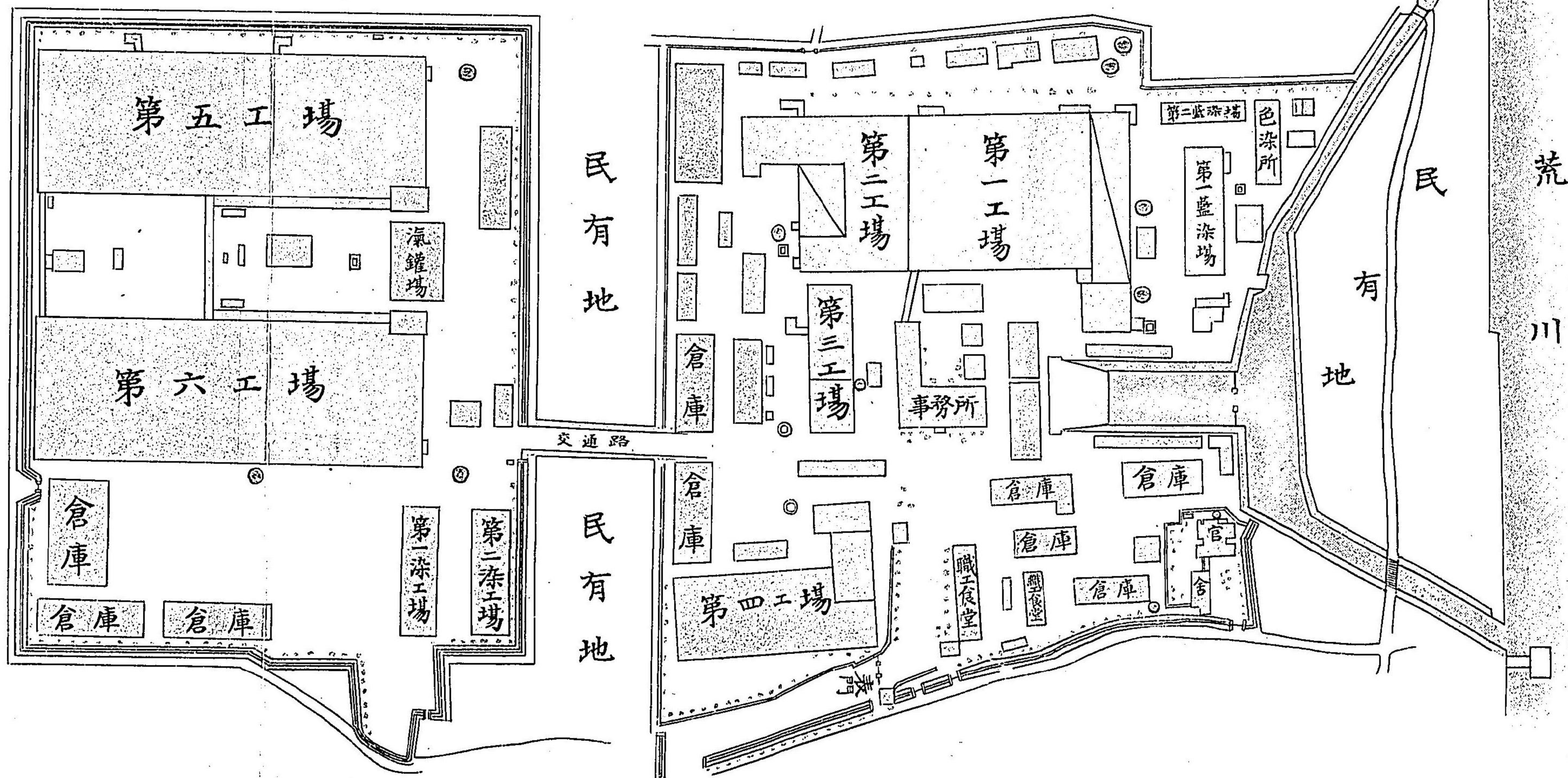
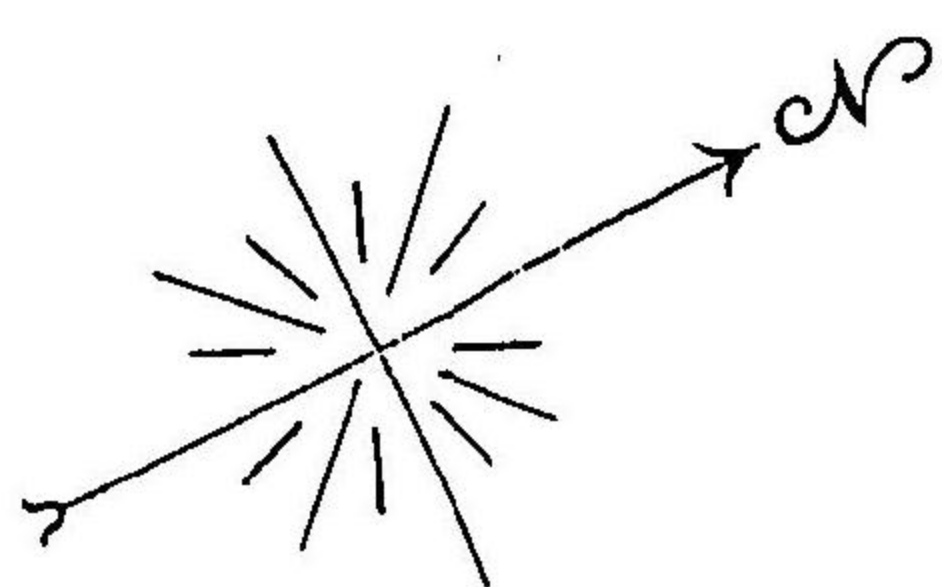
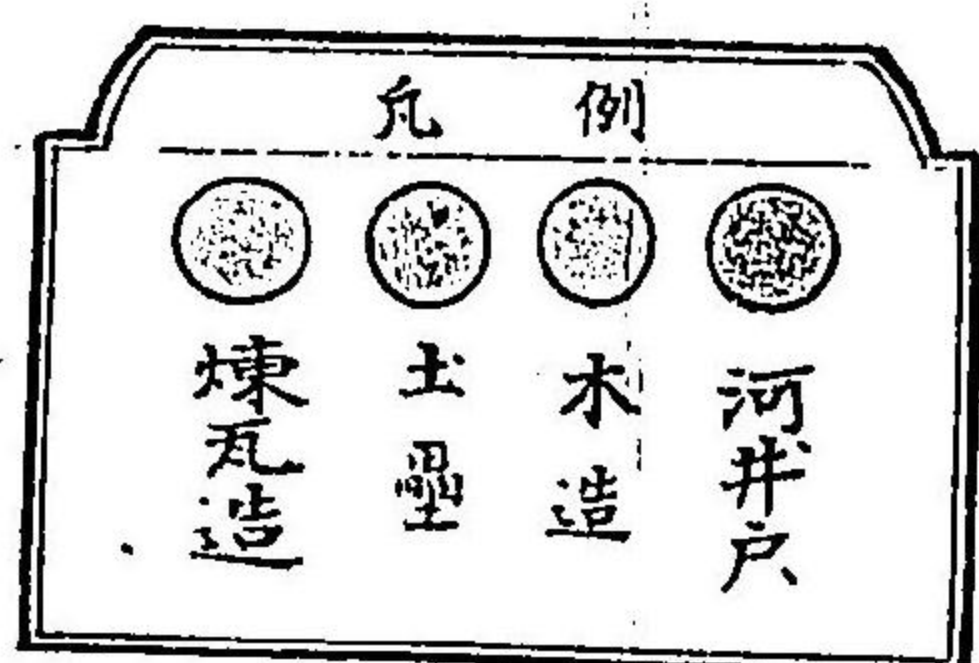
第壹圖



千住製絨所配置平面圖

縮尺壹千八百分之壹

第貳圖



千住製絨所配置平面圖

縮尺壹千八百分之壹

第參圖

